RICOH

IPSiO SP 3510

使用説明書
〈ソフトウェアガイド〉

安全に正しくお使いいただくために、操作の前には必ず『安全上のご注意』をお読みください。

目次

1. 印刷するための準備

2. プリンタードライバー画面と設定方法

3. いろいろな印刷

4. 操作部で設定する

5. 機器の監視

6. プリントサーバーを使用する

7. Windows の補足情報

8. 付録

使用説明書の紹介

本機には紙の使用説明書と画面で見る使用説明書（HTML/PDF）が用意されています。

画面で見る使用説明書は付属の CD-ROMに収録されています。説明書の開きかたや使いかたについては、『ハードウェアガイド』「画面で見る使用説明書の使いかた」を参照してください。

本機を使用するためにお読みいただく使用説明書と内容は以下のとおりです。

紙の使用説明書も画面で見る使用説明書も記載内容は同じです。

はじめにお読みください（）

本製品についてのお問い合わせ先、注意事項を記載しています。また、HTML マニュアルについて説明しています。

安全上のご注意（）

本機を安全にお使いいただくための注意事項を説明します。

故障やけがを防ぐため、本機のご利用前に必ずお読みください。

かんたんセットアップ（）

本機に同梱されています。プリンターを梱包箱から取り出し、パソコンと接続、プリンタードライバーをインストールするまでの手順を説明しています。

クイックガイド（）

本機に同梱されています。困ったときの対処方法や、消耗品の交換などについて説明しています。困ったときにすばやく対処できるよう、プリンターの近くに常備しておいてください。

ハードウェアガイド（）

付属の CD-ROM に、HTML 形式と PDF 形式の電子マニュアルが収録されています。用紙に関する情報、消耗品の交換手順、印刷がはじまらないとき・思いどおりに印刷できないときの解決方法、紙づまりの処置など、本機を使用する上で重要な情報がまとめられています。必要に応じてご活用ください。

ソフトウェアガイド（本書）（）

付属の CD-ROM に、HTML 形式と PDF 形式の電子マニュアルが収録されています。プリンタードライバーのインストール手順や設定方法を説明しています。使用しているパソコンに対応する部分をお読みください。

管理者の方へ（）

本機に同梱されています。管理者の方への補足情報がまとめられています。

管理者の方が大切に保管してください。

補足

- HTML 形式の使用説明書は Web ブラウザーでご覧いただけます。

- PDF 形式の使用説明書を表示するには、Adobe® Acrobat® Reader®/Adobe Reader が必要です。

使用説明書一覧表

分冊名	紙マニュアル	画面で見る使用説明書（HTML 形式のマニュアル）	画面で見る使用説明書（PDF 形式のマニュアル）
はじめにお読みください	なし	有り	なし
かんたんセットアップ	有り	なし	有り
クイックガイド	有り	なし	有り
ハードウェアガイド	なし	有り	有り
ソフトウェアガイド	なし	有り	有り
管理者の方へ	有り	なし	なし
安全上のご注意	有り	なし	有り

はじめに

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

株式会社 リコー
東京都中央区銀座 8-13-1 リコービル 〒 104-8222
http://www.ricoh.co.jp/

複製、印刷が禁止されているもの

本機を使って、何を複製、印刷してもよいとは限りません。法律により罰せられることもありますので、ご注意ください。

1. 複製、印刷することが禁止されているもの

（見本と書かれているものでも複製、印刷できない場合があります。）

- 紙幣、貨幣、銀行券、国債証券、地方債券など
- 日本や外国の郵便切手、印紙
- **（関係法律）**
    - 紙幣類似証券取締法
    - 通貨及証券模造取締法
    - 郵便切手類模造等取締法
    - 印紙等模造取締法
    - （刑法 第 148 条 第 162 条）

2. 不正に複製、印刷することが禁止されているもの

- 外国の紙幣、貨幣、銀行券
- 株券、手形、小切手などの有価証券
- 国や地方公共団体などの発行するパスポート、免許証、許可証、身分証明書などの文書または図画
- 個人、民間会社などの発行する定期券、回数券、通行券、食券など、権利や事実を証明する文書または図画
- **（関係法律）**
    - 刑法 第 149 条 第 155 条 第 159 条 第 162 条
    - 外国ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券証券偽造変造及模造ニ関スル法律

3. 著作権法で保護されているもの

おことわり

本機に登録した内容は、必ず控えをとってください。お客様が操作をミスしたり本機に異常が発生した場合、登録した内容が消失することがあります。

本機の故障による損害、登録した内容の消失による損害、その他本機の使用により生じた損害について、当社はいっさいその責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

本製品（ハードウェア、ソフトウェア）および使用説明書（本書・付属説明書）を運用した結果の影響については、いっさい責任を負いかねますのでご了承ください。

この本の読みかた

この説明書の読みかたや、使われているマークについて説明します。

正しくお使いいただくために

この使用説明書は、製品の正しい使い方や使用上の注意について記載してあります。ご使用の前に、この使用説明書を最後までよくお読みの上、正しくお使いください。

安全に正しくお使いいただくために、操作の前には必ず『安全上のご注意』をお読みください。

マークについて

本書で使われているマークには次のような意味があります。

重要

機能をご利用になるときに留意していただきたい項目を記載しています。紙づまり、原稿破損、データ消失などの原因になる項目も記載していますので、必ずお読みください。

補足

機能についての補足項目、操作を誤ったときの対処方法などを記載しています。

参照

説明、手順の中で、ほかの記載を参照していただきたい項目の参照先を示しています。

各タイトルの一番最後に記載しています。

[ ]

キーとボタンの名称を示します。

『 』

本書以外の分冊名称を示します。

本書についてのご注意

本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。

機械の改良変更等により、本書のイラストや記載事項とお客様の機械とが一部異なる場合がありますのでご了承ください。

画面の表示内容やイラストは機種、オプションによって異なります。

本書は、原則的にオプションを装着した状態の画面と外観イラストを使って説明しています。

IP アドレスについて

本書で「IP アドレス」と表記されている場合は、IPv4 と IPv6 の両環境に対応していることを示しています。お使いの環境に合わせてお読みください。

おもなオプションと略称

本体に用意されているおもなオプションの名称と、本文中で使用している略称を示します。

商品名	略称
250 枚増設トレイ 3400	250 枚増設トレイ

- 250 枚増設トレイが装着されている場合、本機では「トレイ 2」と表示されます。

1. 印刷するための準備

この章では、本機に同梱されている CD-ROM からドライバーやソフトウェアをインストールする手順などについて説明します。

接続方法を確認する

本機は、ネットワーク接続または USB 接続ができます。

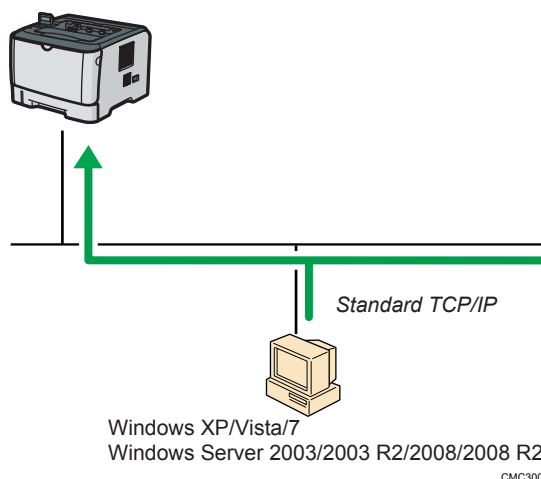
プリンタードライバーをインストールする前に、本機をネットワークまたは USB ケーブルのどちらで接続したかを確認し、それぞれのインストール方法に従って、プリンタードライバーをインストールしてください。

ネットワーク接続

ネットワーク接続では、Windows の印刷ポートを使用してプリンターへのダイレクト印刷（Peer-to-Peer ネットワーク）やサーバーを使用してクライアントから印刷するネットワークプリンターとして本機を使用します。

Windows の印刷ポートを使用する

ご使用の OS によって使用できるポートが異なります。使用可能なインターフェースはイーサネットです。

本機を Windows の印刷ポートとして使用するときのドライバーのインストール方法については、「ネットワーク環境にプリンタードライバーをインストールする」を参照してください。

対応する OS

Windows XP/Vista/7、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2

接続方法

イーサネット（10BASE-T/100BASE-TX）

使用できるポート

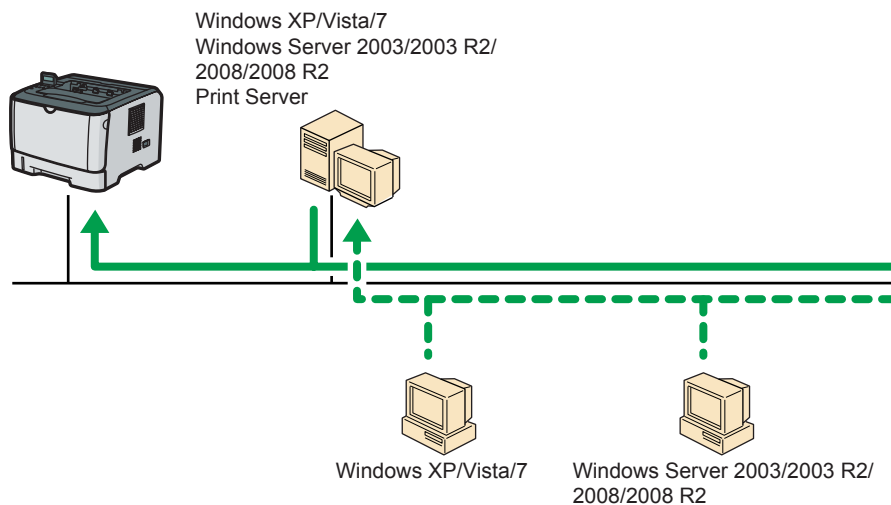
Standard TCP/IP ポート

参照

- P.17「ネットワーク環境にプリンタードライバーをインストールする」

プリントサーバーを使用する

本機は、Windows ネットワークプリンターとして使用できます。

本機を、Windows ネットワークプリンターとして使用するときのインストール方法については、「Windows ネットワークプリンターを使う」を参照してください。

参照

- P.20「Windows ネットワークプリンターを使う」

USB 接続

USB ケーブルを使用して、本機を接続します。

本機を USB 接続で使用するときのドライバーのインストール方法については、「USB 接続でプリンタードライバーをインストールする」を参照してください。

- P.21「USB 接続でプリンタードライバーをインストールする」

1

プリンタードライバーについて

お使いの OS のバージョンまたはエディションによってはプリンタードライバーのインストール手順が異なる場合があります。詳細は Windows のヘルプを参照してください。

プリンタードライバーのダウンロードについて

プリンタードライバーは、付属の CD-ROM からインストールするか、リコーのホームページからダウンロードできます。

ドライバーをダウンロードするには、リコーのホームページで本機を選択し、お使いの OS を選択してください。(http://www.ricoh.co.jp/download/index.html)

補足

- ダウンロードできるプリンタードライバーの OS 別対応状況については、リコーのホームページで確認できます。(http://www.ricoh.co.jp/IPSiO/os/)

ネットワーク環境にプリンタードライバーをインストールする

ネットワーク環境で本機を使用するときの、プリンタードライバーのインストール方法を説明します。

プリンタードライバーをインストールする

重要

- この操作を行うには、Windows のログオン時に管理者権限が必要です。Administrators グループのメンバーでログオンしてください。
- ユーザーごとにプリンターのデフォルト設定を変更することはできません。プリンターのプロパティダイアログボックスで設定した内容はすべてのユーザーに適用されます。

ここでは、Windows 7 での使用方法を例に説明します。

1. **すべてのアプリケーションを終了します。**
2. **本機に付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。**

   インストーラーが起動します。

   [自動再生] ダイアログが表示されたら、[SETUP.EXE の実行] をクリックします。

3. **[プリンタードライバー] をクリックします。**

   ソフトウェア使用許諾契約が表示されます。

4. **ソフトウェア使用許諾契約のすべての項目を読み、同意する場合は [同意します] をクリックし、[次へ>] をクリックします。**
5. **[新しいプリンターを追加する] を選択して、[次へ>] をクリックします。**

6. [ネットワーク接続/その他接続のプリンター] を選択して、検出方法を選択してから [次へ>] をクリックします。

本機を自動的に検出するには [プリンターを自動検索する] を選択してください。

本機を直接指定するには、[IP アドレスを指定して検索する] を選択してください。

7. 手順 6 で [プリンターを自動検索する] を選択した場合は、画面に表示された機器の名前と IP アドレスを確認して [次へ>] をクリックします。[IP アドレスを指定して検索する] を選択した場合は、表示されたダイアログボックスで本機の IP アドレスを入力し、[OK] をクリックします。

8. [プリンタードライバーの導入] ダイアログで本機の名前を選択し、必要な設定を行ってから [完了] をクリックします。

9. [プリンタードライバーインストール完了] ダイアログで、[完了] をクリックします。

補足

- インストールの途中で Windows の警告メッセージが表示されることがありますが、インストールを続行してください。
- 手順 6 でプリンターの自動検索に失敗した場合は、「ネットワークプリンターの検索に失敗した場合」を参照してください。
- [完了] をクリックすると、[デジタル署名がみつかりませんでした] という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、[はい] または [続行] をクリックし、インストールを続行してください。
- OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUP.EXE」をダブルクリックして起動してください。
- インストールの途中で [キャンセル] をクリックすると、ソフトウェアのインストールが中止されます。
- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「プリンタードライバーのインストール中にメッセージが表示されたとき」を参照してインストールし直してください。
- Standard TCP/IP Port 以外のポートにドライバーをインストールした場合、インストール終了後、ポートの設定を変更できます。ポートの設定の変更について詳しくは、「ネットワークプリンターの検索に失敗した場合」を参照してください。

参照

- P.24「プリンタードライバーのインストール中にメッセージが表示されたとき」
- P.19「ネットワークプリンターの検索に失敗した場合」

ネットワークプリンターの検索に失敗した場合

プリンタードライバーのインストール中に、ネットワークプリンターの検索に失敗した場合の設定方法を説明します。

ここでは、Windows 7 での使用方法を例に説明します。

プリンターの IP アドレスを確認する

操作部を使用して、プリンターの IP アドレスを確認します。 プリンターの IP アドレスが正しく設定されていない場合は、IP アドレスを正しく設定し直してください。 IP アドレスの確認と設定方法については、「インターフェース設定メニューを変更する」を参照してください。

ポートの設定を変更する

1. [スタート] メニューから [デバイスとプリンター] をクリックします。
2. 本機のアイコンを右クリックして、[プリンターのプロパティ] をクリックします。

   プリンターのプロパティが表示されます。
3. [ポート] タブをクリックし、[ポートの追加...] をクリックします。
4. [Standard TCP/IP Port] をクリックし、[新しいポート...] をクリックします。

   標準 TCP/IP プリンターポートの追加ウィザードが表示されます。
5. [次へ>] をクリックします。
6. 操作部で確認した本機の IP アドレスを入力し、[次へ>] をクリックします。

   本機の IP アドレスを変更した場合は、新たに設定した本機の IP アドレスを入力してください。
7. [完了] をクリックします。
8. [閉じる] をクリックして、[プリンターポート] ダイアログを閉じます。
9. 新しく設定した IP アドレスにチェックが入っていることを確認して [閉じる] をクリックします。

1

補足

- インストールの途中で Windows の警告メッセージが表示されることがありますが、インストールを続行してください。

参照

- P.71「インターフェース設定メニューを変更する」

Windows ネットワークプリンターを使う

Windows ネットワークプリンターとして、本機を使用する場合のプリンタードライバーのインストール方法を説明します。

ここでは、Windows 7 での使用方法を例に説明します。

Windows ネットワークプリンターの設定方法の詳細は、Windows のヘルプを参照してください。

重要

- **下記の設定を行うには、事前に本機をネットワークプリンターに設定しておく必要があります。ネットワークプリンターの設定方法については、「プリントサーバーを使用する」を参照してください。**

1. **[スタート]ボタンをクリックし、[デバイスとプリンター]をクリックします。**
2. **[プリンターの追加]をクリックします。**

   [プリンターの追加]ウィザードが表示されます。
3. **[ネットワーク、ワイヤレスまたは Bluetooth プリンターを追加します]をクリックします。**
4. **共有プリンタの一覧から本機を選択し、[次へ]をクリックします。**
5. **正しくドライバーが追加されたことを確認して、[次へ]をクリックします。**
6. **[完了]をクリックします。**

補足

- インストールの途中で Windows の警告メッセージが表示されることがありますが、インストールを続行してください。

参照

- P.115「プリントサーバーを使用する」

USB 接続でプリンタードライバーをインストールする

ここでは、本機とパソコンを USB ケーブルで接続し、ドライバーをインストールする方法を説明しています。

セットアップを始める前に USB ケーブルを接続するパソコンが以下の状態であることを確認してください。

- OS 以外のソフトウェアが起動していない
- 印刷を行っていない

重要

- **この操作を行うには Windows へのログオン時に、管理者権限が必要です。Administrators グループのメンバーでログオンしてください。**

補足

- ご使用の機器のプリンタードライバーがすでにインストールされている場合、「USB」ポートに接続したプリンターのアイコンが［プリンタと FAX］または［プリンタ］または［デバイスとプリンター］ウィンドウに追加されます。
- USB ケーブルをはじめて使用した場合、お使いの OS によって［新しいハードウェアの検出］や［新しいハードウェアの追加ウィザード］が表示されます。この場合は［キャンセル］をクリックします。

ここでは、Windows 7 での使用方法を例に説明します。

1. すべてのアプリケーションを終了します。

2. 本機の電源が切れていること、USB ケーブルが機器と接続されていないことを確認します。

3. 本機に付属の CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットします。

インストーラーが起動します。

［自動再生］ダイアログが表示されたら、［SETUP.EXE の実行］をクリックします。

1

4. ［プリンタードライバー］をクリックします。

ソフトウェア使用許諾契約が表示されます。

5. ソフトウェア使用許諾契約のすべての項目を読み、同意する場合は、［同意します］をクリックし、［次へ >］をクリックします。

6. ［新しいプリンターを追加する］を選択して、［次へ >］をクリックします。

7. ［USB 接続のプリンター］を選択して、［次へ >］をクリックします。

8. 本機の電源が切れていること、USB ケーブルが機器と接続されていないことを確認し、［次へ >］をクリックします。

9. ［接続先（USB ポート）の自動認識］ダイアログが表示されたら、本機とパソコンを USB ケーブルで接続し、本機の電源を入れます。

USB 自動認識の使用を中止する場合は、［自動認識中止］をクリックします。

10. 本機を通常使用するプリンターに設定するかどうか選択します。

11. インストール完了のメッセージが表示されたら、［完了］をクリックします。

12. 「再起動の確認」ダイアログが表示された場合は、今すぐ再起動するか、後で再起動するかを選択し、［完了］をクリックします。

補足

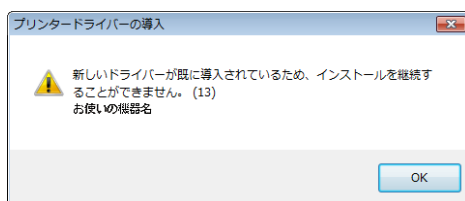
- インストールの途中で Windows の警告メッセージが表示されることがありますが、インストールを続行してください。
- Windows Vista では、CD-ROM をセットしたときに、セキュリティー設定のため、［ユーザー アカウント制御］ダイアログが表示されることがあります。この場合、［許可］をクリックします。
- オートランを使用せずにインストールを行う場合、キーボードの左側の［Shift］キーを押しながら、本機に付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。パソコンが CD-ROM を完全に認識するまで左側の［Shift］キーを押し続けてください。
- インストールが正常に終了すると、「USB001」を［印刷するポート］に指定したプリンターが［デバイスとプリンター］ウィンドウに作成されます。「USB」に続く数字は、接続しているプリンターの台数によって異なります。
- プリンターの接続に失敗すると、エラーメッセージが表示されます。USB ケーブルが正しく接続され、本機の電源が入っていることを確認して［再試行］をクリックします。

USB 接続がうまくいかないとき

状態	対処方法
本機が自動認識されない。	本機の電源を OFF にして、ケーブルを再接続し、接続した後、電源を ON にしてください。
Windows が自動的に USB 接続の設定をしてしまった。	Windows のデバイスマネージャで、不正なデバイスを［ユニバーサル シリアル バス コントローラ］または［USB（Universal Serial Bus）コントローラ］から削除してください。不正なデバイスは、アイコンに黄色の［!］がついたり、黄色の［?］がついたりしています。必要なデバイスを削除しないようにご注意ください。デバイスマネージャへのアクセス方法、デバイスの削除について詳しくは、Windows のヘルプを参照してください。

プリンタードライバーのインストール中にメッセージが表示されたとき

1

プリンタードライバーのインストール中にメッセージが表示されたときの操作方法に関する説明です。

上記のような（13）、（58）、または（34）のメッセージが表示されたときは、オートランプログラムによるインストールはできません。お使いの OS のプリンター追加ウィザードに従ってインストールし直してください

Windows XP Professional、Windows Server 2003/2003 R2 の場合

1. ［スタート］ボタンをクリックし、［プリンタと FAX］をクリックします。
2. ［プリンタのインストール］をクリック、または［プリンタの追加］アイコンをダブルクリックします。
3. ［プリンタの追加ウィザード］に従ってインストールします。

Windows XP Home Edition の場合

1. ［スタート］ボタンをクリックし、［コントロールパネル］をクリックします。
2. ［プリンタとその他のハードウェア］をクリックします。
3. ［プリンタと FAX］をクリックします。
4. ［プリンタのインストール］をクリックします。
5. ［プリンタの追加ウィザード］に従ってインストールします。

Windows Vista、Windows Server 2008 の場合

1. ［スタート］ボタンをクリックし、［コントロールパネル］をクリックします。
2. ［ハードウェアとサウンド］カテゴリーの中から、［プリンタ］をクリックします。
3. ［プリンタのインストール］をクリックします。
4. ［プリンターの追加］ウィザードに従ってインストールします。

Windows 7、Windows 2008 R2 の場合

1. ［スタート］ボタンをクリックし、［デバイスとプリンター］をクリックします。
2. ［プリンターの追加］をクリックします。
3. ［プリンターの追加］ウィザードに従ってインストールします。

補足

- インストールの途中で Windows の警告メッセージが表示されることがありますが、インストールを続行してください。

オプション構成や用紙の設定

本機に装着されているオプションや、セットされている用紙の情報をプリンタードライバーに設定します。

重要

- **プリンタープロパティを変更するには、「このプリンターの管理」のアクセス権が必要です。Administrators グループのメンバーとして Windows にログオンしてください。**
- **双方向通信が可能な場合は、有効にしてお使いください。双方向通信が働いていると、パソコン側から本機の用紙設定や本機の状態を取得できます。**

双方向通信が可能な条件

双方向通信が働いていると、パソコン側から本機にセットされている用紙サイズなどの情報を取得できます。また、本機の状態も確認できます。

双方向通信を利用するためには、以下の条件を満たしている必要があります。

- ネットワークで接続している場合

  本機が TCP/IP 標準ポートでネットワークに接続されており、ポートのデフォルト名が変わっていない。

  プリンタードライバーのプロパティ画面の［ポート］タブで、［双方向サポートを有効にする］にチェックマークを付けている。

- USB で接続している場合

  本機が USB インターフェースケーブルでパソコンに接続されている。

  プリンタードライバーのプロパティ画面の［ポート］タブで、［双方向サポートを有効にする］にチェックマークを付けている。

双方向通信が働いていない場合

ここでは Windows 7 を例に説明します。

1. **［スタート］メニューから［デバイスとプリンター］をクリックします。**

   ［デバイスとプリンター］ウィンドウが表示されます。

2. **本機のアイコンを右クリックして、［プリンターのプロパティ］をクリックします。**
3. **［オプション構成］タブをクリックし、手動で装着されているオプションを選択します。**
4. **［用紙サイズ］タブをクリックし、手動で使用するトレイと用紙サイズを選択します。**
5. **［OK］をクリックし、プリンターのプロパティを閉じます。**

- 双方向通信が働いていない場合でも印刷はできますが、印刷中にジョブの状態を取得できません。双方向通信を有効にしてお使いください。

2. プリンタードライバー画面と設定方法

この章ではプリンタードライバー画面の説明と、設定方法について説明します。

Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 の場合

Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 で、プリンタードライバーの設定画面を表示させる方法です。

Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 で［プリンタと FAX］ウィンドウからプロパティを表示する

［プリンタと FAX］ウィンドウのプロパティから、プリンタードライバーの設定画面を表示させる方法です。

重要

- プリンターのプロパティの内容を変更するにはプリンターの管理のアクセス権が必要です。内容を変更するときは、Administrators グループのメンバーとして Windows にログオンしてください。
- プリンターのプロパティの設定をユーザーごとに変えることはできません。プリンタープロパティで行った設定が、このプリンタードライバーを使って印刷するすべてのユーザーの設定になります。
- アプリケーションによっては、ここで設定した初期値が反映されない場合があります。

［プリンタと FAX］ウィンドウからプリンターのプロパティを表示させると、[全般]、[共有]、[ポート]、[詳細設定]、[色の管理]、[セキュリティ]、[オプション構成]、[応用設定]、[用紙サイズ］ タブが表示されます。

［全般］、［共有］、［ポート］、［詳細設定］、［色の管理］、［セキュリティ］タブは Windows が追加するタブで、Windows の機能に関する設定をします。

［オプション構成］、［応用設定］、［用紙サイズ］タブはプリンターに関する設定を行うタブです。

ここでは Windows XP を例に説明します。

1. ［スタート］メニューから［プリンタと FAX］をクリックします。

2. 本機のアイコンを右クリックして、［プロパティ］をクリックします。

プリンターのプロパティが表示されます。

補足

- ここでの設定が、すべてのアプリケーションでの設定の初期値になります。
- 設定方法の詳細は、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 で［プリンタと FAX］ウィンドウから印刷設定を表示する

［プリンタと FAX］ウィンドウの印刷設定から、プリンタードライバーの設定画面を表示させる方法です。

重要

- **印刷設定をユーザーごとに変えることはできません。印刷設定で行った設定が、このプリンタードライバーを使って印刷するすべてのユーザーの初期値になります。**
- **アプリケーションによっては、ここで設定した初期値が反映されない場合があります。**

［プリンタと FAX］ウィンドウから印刷設定を表示させると、［基本］、［用紙］、［印刷品質］、［アクセスの制限］、［スタンプ印字］ タブが表示されます。

これらのタブはプリンタードライバーの印刷に関する設定を行うタブです。このタブで行った設定が、すべてのアプリケーションで印刷するための設定の初期値になります。

ここでは Windows XP を例に説明します。

1.［スタート］メニューから［プリンタと FAX］をクリックします。

2. 本機のアイコンを右クリックして、［印刷設定...］をクリックします。

印刷設定が表示されます。

補足

- ここでの設定がアプリケーションから印刷するときに必要な設定の初期値になります。
- 設定方法の詳細は、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 でアプリケーションからプロパティを表示する

Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 で、アプリケーションからプリンタードライバーの設定画面を表示させる方法です。

アプリケーションから印刷ダイアログを表示させると、［基本］、［用紙］、［印刷品質］、［アクセスの制限］、［スタンプ印字］ タブが表示されます。

これらのタブには［プリンタと FAX］ウィンドウから表示させた印刷設定の内容が初期値として表示されますので、アプリケーションからの印刷時は必要な項目を変更して印刷します。

印刷を行うアプリケーションだけに有効な設定をするには、プリンターのプロパティをアプリケーションから表示させて設定します。ここでは Windows XP に付属の「ワードパッド」を例に説明します。

1.［ファイル］メニューの［印刷...］をクリックします。

2. プリンターを選択し、［詳細設定］をクリックします。

［印刷設定］ダイアログが表示されます。

補足

- ここでの設定は印刷するアプリケーションでのみ有効な設定です。
- アプリケーションによっては印刷の初期値を変更するものもあります。

- 実際の表示の方法はアプリケーションによって多少異なります。詳細はアプリケーションの説明書やヘルプを参照してください。
- アプリケーションの［印刷］ダイアログから表示したプロパティは、一般ユーザーでも変更できます。
- 設定方法の詳細は、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

Windows Vista/7、Windows Server 2008/2008 R2 の場合

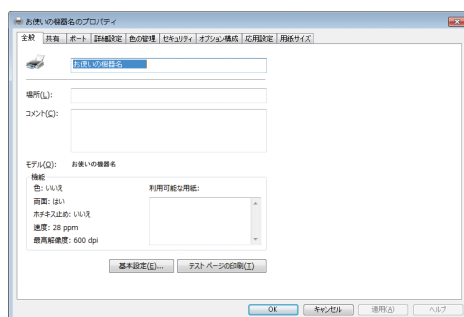
Windows Vista,7、Windows Server 2008/2008 R2 で、プリンタードライバーの設定画面を表示させる方法です。

Windows Vista/7、Windows Server 2008/2008 R2 で［デバイスとプリンター］ウィンドウからプロパティを表示する

［デバイスとプリンター］ウィンドウのプロパティから、プリンタードライバーの設定画面を表示する方法です。

重要

- プリンターのプロパティの内容を変更するにはプリンターの管理のアクセス権が必要です。内容を変更するときは、管理者権限を持つアカウントでログオンするか、一時的に管理者として実行してください。詳しくは Windows のヘルプを参照してください。
- プリンターのプロパティの設定をユーザーごとに変えることはできません。プリンタープロパティで行った設定が、このプリンタードライバーを使って印刷するすべてのユーザーの設定になります。
- アプリケーションによっては、ここで設定した初期値が反映されない場合があります。

［デバイスとプリンター］ウィンドウからプリンターのプロパティを表示させると、［全般］、［共有］、［ポート］、［詳細設定］、［色の管理］、［セキュリティ］、［オプション構成］、［応用設定］、［用紙サイズ］タブが表示されます。

［全般］、［共有］、［ポート］、［詳細設定］、［色の管理］、［セキュリティ］タブは Windows が追加するタブで、Windows の機能に関する設定をします。

［オプション構成］、［応用設定］、［用紙サイズ］タブはプリンターに関する設定を行うタブです。

ここでは Windows 7 を例に説明します。

1. [スタート] メニューから [デバイスとプリンター] をクリックします。
2. 本機のアイコンを右クリックして、[プリンターのプロパティ] をクリックします。

   プリンターのプロパティが表示されます。

補足

- ここでの設定が、すべてのアプリケーションでの設定の初期値になります。
- 設定方法の詳細は、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

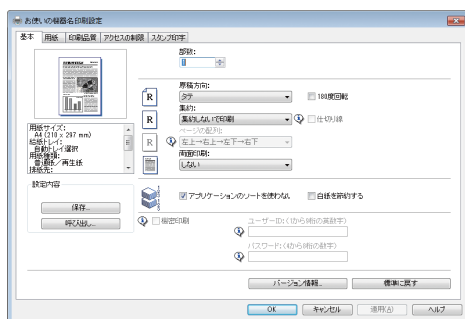
2

Windows Vista/7、Windows Server 2008/2008 R2 で [デバイスとプリンター] ウィンドウから印刷設定を表示する

[デバイスとプリンター] ウィンドウのドキュメントの既定値から、プリンタードライバーの設定画面を表示する方法です。

重要

- **印刷設定をユーザーごとに変えることはできません。印刷設定で行った設定が、このプリンタードライバーを使って印刷するすべてのユーザーの初期値になります。**
- **アプリケーションによっては、ここで設定した初期値が反映されない場合があります。**

[デバイスとプリンター] ウィンドウから印刷設定を表示させると、[基本]、[用紙]、[印刷品質]、[アクセスの制限]、[スタンプ印字] タブが表示されます。

これらのタブはプリンタードライバーの印刷に関する設定を行うタブです。このタブで行った設定が、すべてのアプリケーションで印刷するときの設定の初期値になります。

ここでは Windows 7 を例に説明します。

1. [スタート] メニューから [デバイスとプリンター] をクリックします。
2. 本機のアイコンを右クリックして、[印刷設定] をクリックします。

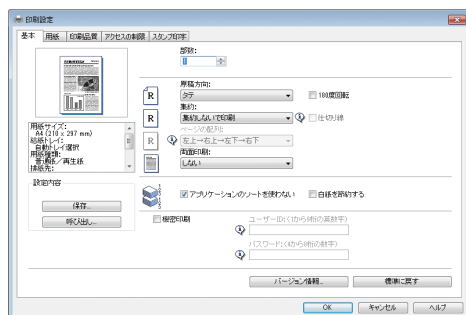
   印刷設定が表示されます。

補足

- ここでの設定がアプリケーションから印刷するときに必要な設定の初期値になります。
- 設定方法の詳細は、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

Windows Vista/7、Windows Server 2008/2008 R2 でアプリケーションからプロパティを表示する

Windows Vista/7、Windows Server 2008/2008 R2 で、アプリケーションからプリンタードライバーの設定画面を表示させる方法です。

アプリケーションからプリンターのプロパティを表示させると、［基本］、［用紙］、［印刷品質］、［アクセスの制限］、［スタンプ印字］タブが表示されます。

［デバイスとプリンター］ウィンドウから表示させた印刷設定の内容が初期値として表示されますので、アプリケーションからの印刷時は必要な項目を変更して印刷します。

印刷を行うアプリケーションだけに有効な設定をするには、プリンターのプロパティをアプリケーションから表示させて設定します。ここでは Windows 7 に付属の「メモ帳」を例に説明します。

1. ［ファイル］メニューの［印刷...］をクリックします。

［印刷］画面が表示されます。

2. 本機を選択し、［詳細設定］をクリックします。

- ここでの設定は印刷するアプリケーションでのみ有効な設定です。
- アプリケーションによっては印刷の初期値を変更するものもあります。
- 実際の表示の手順はアプリケーションによって多少異なります。詳細はアプリケーションの説明書やヘルプを参照してください。
- アプリケーションの［印刷］ダイアログから表示したプロパティは、標準ユーザーでも変更できます。
- 設定方法の詳細は、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

3. いろいろな印刷

強制印刷や印刷の中止、ソートなどの印刷機能について説明します。

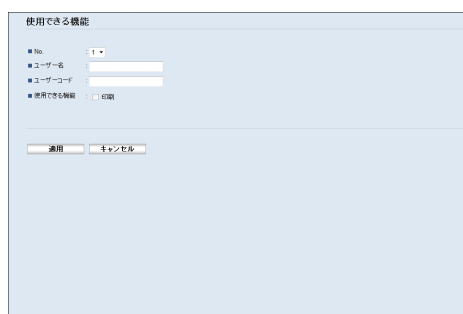
ユーザーごとに印刷機能を制限する

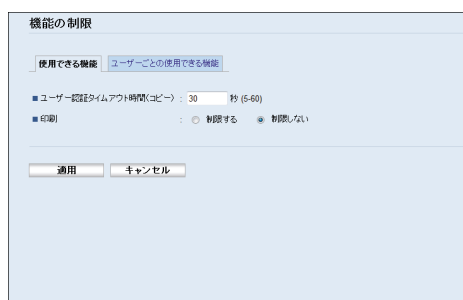
ユーザーが印刷機能を使用しようとする場合に、ユーザーコードを要求するように設定することができます。

設定を有効にするには、Web Image Monitor で行います。

ユーザー制限設定を有効にする

認証ユーザーのみが印刷機能を使用することができるようにする方法を説明します。

Web Image Monitor を使用して、印刷機能にユーザー制限をかけます。

認証をかけるかどうかをユーザーごとに設定することができます。最大で 30 ユーザーを登録できます。

1. **Web ブラウザーを起動し、Web ブラウザーのアドレスバーに「http://（本機の IP アドレス）/」と入力し、本機にアクセスします。**
2. **［機能の制限］をクリックします。**
3. **要求された場合、管理者用パスワードを入力し、［適用］をクリックします。**
4. **［使用できる機能］タブで、［制限する］を選択し、［適用］をクリックします。**

5. **［ユーザーごとの使用できる機能］をクリックします。**

   現在登録されているユーザーのリストが表示されます。

6. **ユーザー登録者を選択し、［変更］をクリックします。**

7. 16 文字までの英数字で、固有のユーザー名を［ユーザー名］に入力し、8 桁までの固有のユーザーコードを［ユーザーコード］に入力します。

制限された機能を使用する場合、ユーザーの認証にユーザーコードが使用されます。

8. 印刷を許可するユーザーの場合、［印刷］を選択します。
9. ［適用］をクリックします。
10. Web ブラウザーを閉じます。

補足

- ユーザー登録を設定するには、ユーザー名およびユーザーコードの両方を入力する必要があります。
- 複数のユーザー登録者が、同じユーザー名またはユーザーコードを使用することはできません。

参照

- Web Image Monitor について詳しくは、P.79「Web Image Monitor を使う」を参照してください。

ユーザー登録を変更する

ユーザー登録の変更方法について説明します。

1. Web ブラウザーを起動し、Web ブラウザーのアドレスバーに「http://（本機の IP アドレス）/」と入力し、本機にアクセスします。
2. ［機能の制限］をクリックします。
3. 要求された場合、管理者用パスワードを入力し、［適用］をクリックします。
4. ［ユーザーごとの使用できる機能］をクリックします。

   現在登録されているユーザーのリストが表示されます。
5. 変更したい登録者を選択し、［変更］をクリックします。
6. 必要に応じて変更します。
7. ［適用］をクリックします。

8. Web ブラウザーを閉じます。

参照

- Web Image Monitor について詳しくは、P.79「Web Image Monitor を使う」を参照してください。

ユーザー登録を削除する

ユーザー登録の削除方法について説明します。

1. Web ブラウザーを起動し、Web ブラウザーのアドレスバーに「http://（本機の IP アドレス）/」と入力し、本機にアクセスします。

2. ［機能の制限］をクリックします。

3. 要求された場合、管理者用パスワードを入力し、［適用］をクリックします。

4. ［ユーザーごとの使用できる機能］をクリックします。

現在登録されているユーザーのリストが表示されます。

5. 削除する登録者を選択し、［削除］をクリックします。

6. 選択した登録者が削除したい登録者であることを確認します。

7. ［適用］をクリックします。

8. Web ブラウザーを閉じます。

参照

- Web Image Monitor について詳しくは、P.79「Web Image Monitor を使う」を参照してください。

印刷機能が制限された場合

印刷機能が制限された場合、認証ユーザーのみがその機能を使用できます。

ユーザーは、プリンタードライバーから認証を受けることができます。

プリンタードライバーで認証する

1. **コンピュータ上で印刷するファイルを開きます。**
2. **プリンタードライバーのプロパティを開きます。**
3. **［アクセスの制限］タブをクリックします。**
4. **1～8 桁でユーザーコードを入力し、［OK］をクリックします。**
5. **印刷を実行します。**

   不正なユーザーコードが入力された場合、ジョブは自動的にキャンセルされます（エラーメッセージは表示されません）。

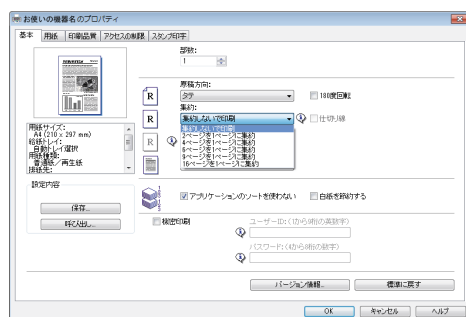
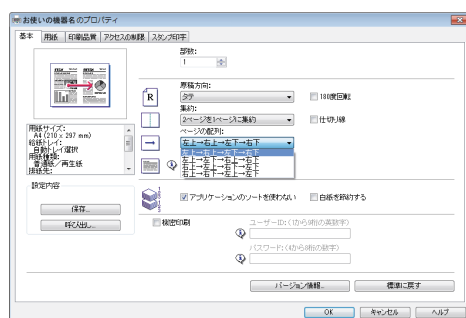
複数のページを集約して印刷する

プリンタードライバーで集約印刷する方法について説明します。集約を設定すると、複数のページを縮小して 1 ページにまとめて印刷ができます。

重要

- 以下の手順は Windows 7 を例に説明しています。OS により手順は異なる場合があります。
- [基本] タブの [両面印刷：] が [中とじ] に選択されている場合や、[用紙] タブの [拡大／縮小%] にチェックが入っている場合、本機能は使用できません。

3

1. アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバーの印刷設定を開きます。
2. [基本] タブをクリックします。
3. [集約：] のプルダウンメニューから集約の種類を選択します。

4. [ページの配列：] のプルダウンメニューからページの並べ方を選択します。

5. その他の印刷の設定を必要に応じて指定し、[OK] をクリックします。
6. アプリケーションから印刷の指示を出します。

補足

- 同じ機能を設定できるアプリケーションから印刷する場合は、アプリケーション側では機能を設定しないでください。アプリケーション側の設定を有効にして印刷すると、意図しない印刷結果になることがあります。

集約印刷の種類

集約の種類について説明します。

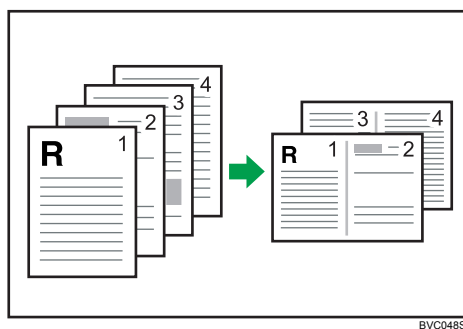
集約印刷で 1 ページにまとめることができるのは、2 ページ、4 ページ、6 ページ、9 ページ、16 ページです。ページの並べ方は最大 4 つのパターンの中から任意に選択ができます。

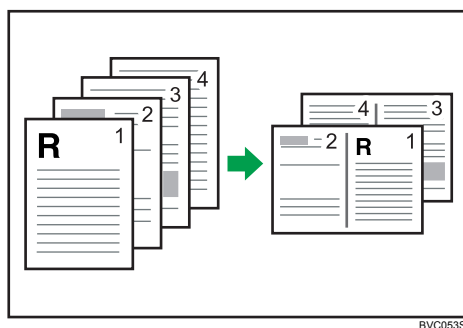
以下の図は 2 ページと 4 ページの場合の集約印刷の例です。

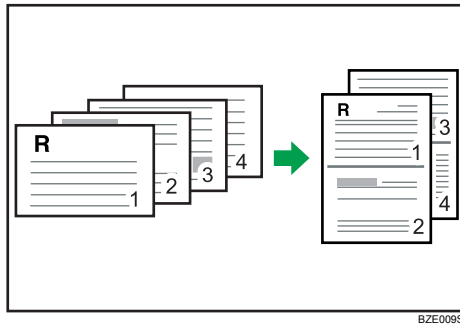
2 ページを 1 ページに集約

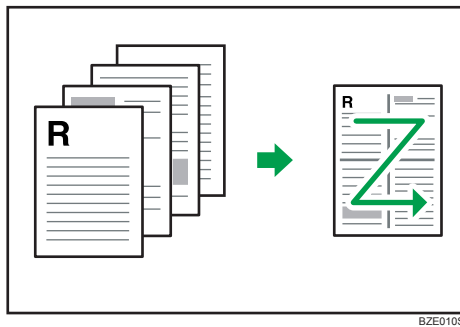
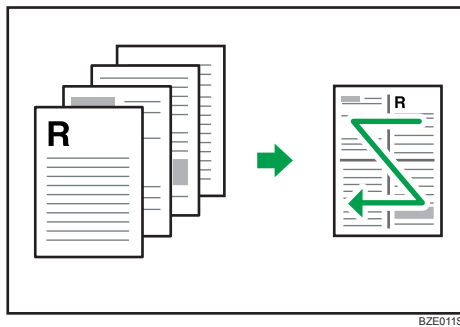
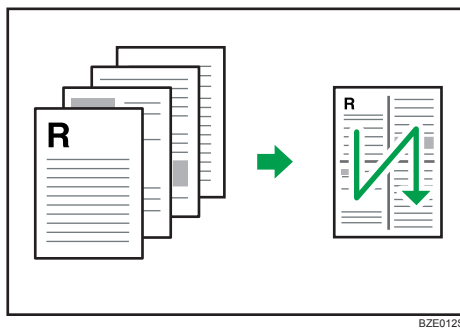
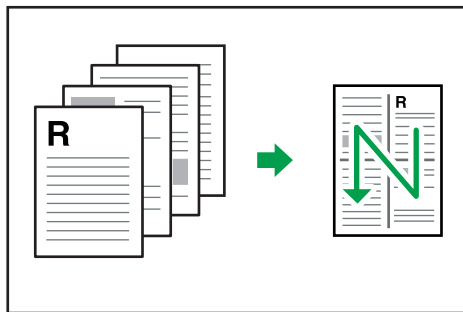
3

- 左から右へ

  ([左上→右上→左下→右下]、[左上→左下→右上→右下])

- 右から左へ

  ([右上→左上→右下→左下]、[右上→右下→左上→左下])

- 上から下へ

  ([左上→右上→左下→右下]、[左上→左下→右上→右下]、[右上→左上→右下→左下]、[右上→右下→左上→左下])

4 ページを 1 ページに集約

- 左上→右上→左下→右下

- 右上→左上→右下→左下

- 左上→左下→右上→右下

- 右上→右下→左上→左下

機密印刷する

機密機能を使用すると、印刷ジョブにパスワードをかけて保護することができます。

機密印刷を使用すると本機の操作部からパスワードを入力しないと印刷できなくなるため、他人に見られる心配がありません。

機密印刷文書を保存する

ここでは、プリンタードライバーを使って、プリンターに機密印刷文書を保存する方法について説明します。

1. **印刷する文書をコンピュータで開きます。**
2. **プリンタードライバーのプロパティを開きます。**
3. **[基本] タブで、[機密印刷] をチェックします。**

   [ユーザー ID:(1 から 9 桁の英数字)] と [パスワード:(4 から 8 桁の数字)] のテキストボックスが入力できるようになります。

   [ユーザー ID:(1 から 9 桁の英数字)] テキストボックスには、コンピュータアカウントのログインユーザー名、または過去の機密印刷ジョブで使用したユーザー ID が入力されています。
4. **ユーザー ID を半角英数字 1 文字以上 9 文字以内で入力し、パスワードを半角数字 4 文字以上 8 文字以内で入力て、[OK] をクリックします。**
5. **印刷の指示をします。**

   プリンターに機密印刷文書が蓄積されます。操作部でパスワードを入力することで、印刷できます。

補足

- 印刷した場合や、プリンターの電源を切った場合、機密印刷文書はプリンターのメモリーから自動的に消去されます。
- 一度に 5 ジョブまたは 5MB の機密印刷文書を保存することができます。
- 機密印刷ファイルをこれ以上プリンターに保存できない場合でも、[インターフェースセッテイ] メニューの [タイムアウト : キミツインサツ] で設定した時間の間、新たな機密印刷文書を保持します。設定した時間の間、新しい機密印刷ファイルを印刷または削除することができます。現在保存している機密印刷ファイルを印刷または削除し、新しい機密印刷ファイルをプリンターに保存するようにもできます。
- 機密印刷文書が中止された場合、プリンターはキャンセルログを自動記録します。このログでどの機密印刷ジョブが中止されたかを判別することができます。

参照

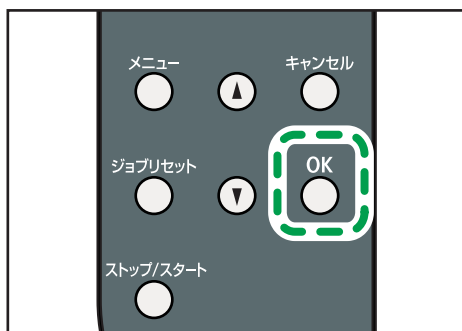
- ［タイムアウト： キミツインサツ］について詳しくは、P.71「インターフェース設定メニュー」を参照してください。

機密印刷文書を印刷する

プリンターに機密印刷文書が保存されている場合、操作部の画面に［キミツインサツ　ブンショデス OK キーヲ　オシテクダサイ］が表示されます。

キミツインサツ ブンショデス OK キーヲ　オシテクダサイ

以下の手順で機密印刷文書を印刷します。

1. **機密印刷メッセージが表示された場合、［OK］キーを押します。**

2. **［▼］［▲］キーで印刷したい文書を選択して、［OK］キーを押します。**

キミツインサツブンショ： HH:MM ユーザー ID

［HH:MM］は機密印刷文書が保存された時間になります。ユーザー ID はプリンタードライバーで入力したユーザー ID になります。

3. **［▼］［▲］キーを押して［インサツ　スル］を表示させ、［OK］キーを押します。**

4. **［▼］［▲］キーを押してパスワードを入力します。**

次のフィールドに進むには、［OK］キーを押します。

入力を破棄するには［キャンセル］キーを押します。前の階層に戻るには、［キャンセル］キーをもう一度押します。

5. **［OK］キーを押します。**

機密印刷文書が印刷されます。

補足

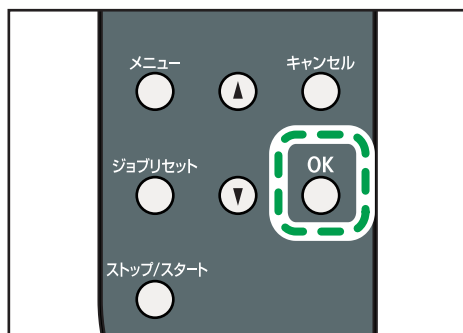
- 以下のキーを使用して操作を中止します。
    - [キャンセル]：操作を中止し、前階層の画面に戻ります。
    - [メニュー]：操作を中止し、初期画面に戻ります。
- プリンターが印刷中の場合、機密印刷文書を印刷できません。
- 印刷した場合や、プリンターの電源を切った場合、機密印刷文書はプリンターのメモリーから自動的に消去されます。

機密印刷文書を削除する

プリンターに機密印刷文書が保存されている場合、操作部の画面に［キミツインサツ　ブンショデス OK キーヲ　オシテクダサイ］が表示されます。

キミツインサツ　ブンショデス
OK キーヲ　オシテクダサイ

以下の手順で機密印刷文書を削除します。機密印刷文書を削除する場合、パスワード入力は不要です。

1. 機密印刷メッセージが表示された場合、［OK］キーを押します。

2. ［▼］［▲］キーで削除したい文書を選択して、［OK］キーを押します。

キミツインサツブンショ：
HH:MM ユーザー ID

[HH:MM] は機密印刷文書が保存された時間になります。ユーザー ID はプリンタードライバーで入力したユーザー ID になります。

3. ［▼］［▲］キーを押して［サクジョ　スル］を表示させ、［OK］キーを押します。
4. ［▼］［▲］キーを押して［ジッコウ］を表示させ、［OK］キーを押します。

機密印刷文書が削除されます。

機密印刷文書／ログがプリンターに残っている場合、操作部の画面に［キミツインサツ ブンショデス OK キーヲ オシテクダサイ］が表示されます。もし何も残っていない場合は、初期画面に戻ります。

補足

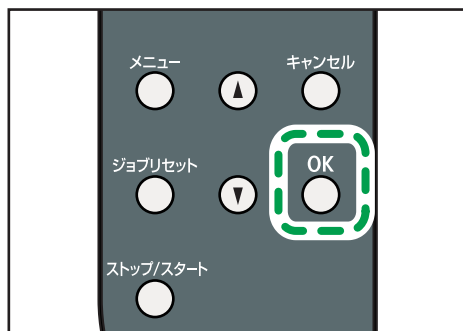
- 以下のキーを使用して操作を中止します。
  - ［キャンセル］：操作を中止し、前階層の画面に戻ります。
  - ［メニュー］：操作を中止し、初期画面に戻ります。

どの機密印刷文書が中止されたかを確認する

機密印刷文書ジョブが中止された場合、プリンターはキャンセルログを自動記録します。もしプリンターがキャンセルログを生成した場合、操作部の画面に［キミツインサツブンショ サクジョシマシタ］が表示されます。

キミツインサツブンショ
サクジョシマシタ

以下の手順で、どの機密印刷文書ジョブが中止されたかを確認します。

1. 機密印刷メッセージが表示された場合、［OK］キーを押します。

2. ［▼］［▲］キーで［!］マークから始まる名前の文書を選択します。

［!］マークは、ジョブがキャンセルされたことを示しています。

キミツインサツブンショ：
!HH:MM ユーザー ID

[HH:MM] は機密印刷文書が保存された時間になります。ユーザー ID はプリンタードライバーで入力したユーザー ID になります。

ログ登録を削除するには、以下の手順に進んでください。

3. ［OK］キーを押します。

4. 削除したいログ登録が選択されていることを確認し、［OK］キーを押します。

5. [▼][▲]キーを押して[ジッコウ]を表示させ、[OK]キーを押します。

ログが削除されます。

機密印刷文書／ログがプリンターに残っている場合、機密印刷文書／ログのリスト画面に戻ります。もし何も残っていない場合は、初期画面に戻ります。

補足

- 以下のキーを使用して操作を中止します。
    - [キャンセル]：操作を中止し、前階層の画面に戻ります。
    - [メニュー]：操作を中止し、初期画面に戻ります。
- プリンターは、最新の 10 件分のキャンセルログを保存します。プリンターのログがすでに一杯で、機密印刷文書が中止された場合、一番古いログが自動的に削除されます。
- 印刷した場合や、プリンターの電源を切った場合、機密印刷文書はプリンターのメモリーから自動的に消去されます。
- すべてのログ登録が削除された場合、[キミツインサツブンショ サクジョシマシタ]の表示が消えます。
- プリンターの電源が切れた場合、ログは削除されます。

部単位で印刷する（ソート）

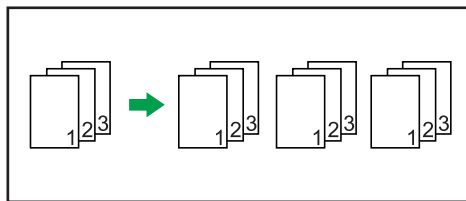
会議資料など複数部数の印刷をする場合、ページ順に仕分けして印刷できます。この機能を「ソート」といいます。

ソート機能を使うときには、プリンタードライバーの印刷設定画面にある［基本］タブの［アプリケーションのソートを使わない］のチェックボックスにチェックを入れてください。

重要

- **［アプリケーションのソートを使わない］のチェックボックスが外された場合、アプリケーションのソート設定が適用となります。**

ソート

下の図のように一部ずつそろえて印刷します。

補足

- 一部目でエラースキップが発生した場合は、ソートは解除されます。
- 一部目で強制排紙が発生した場合は、ソートは解除されます。
- 印刷方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

表紙を印刷する

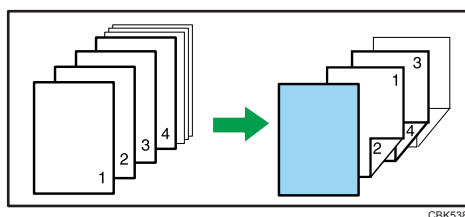
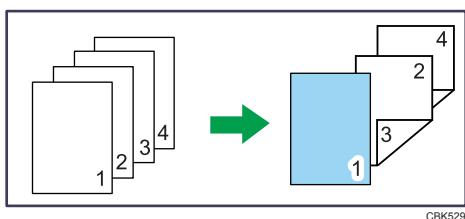
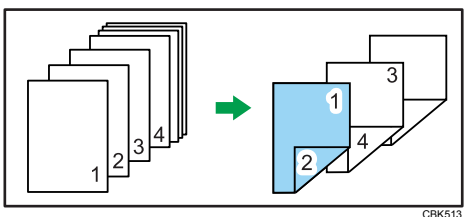
表紙用の用紙に印刷します。または、1 ページ目の前に表紙用の用紙を挿入します。

［用紙］タブの［用紙選択：］で［おもて表紙］を選択することにより、表紙の給紙トレイと印刷方法、他のページの給紙トレイと用紙種類を指定できます。

以下の項目から表紙の印刷方法を指定します。

- 印刷しない
- 片面だけ印刷
- 両面とも印刷（[基本]タブで両面印刷を指定した場合のみ選択できます。）

以下は表紙の印刷方法の例です。

- 表紙用の用紙に印刷しないとき

- 表紙用の用紙に片面印刷するとき

- 表紙用の用紙に両面印刷するとき

補足

- ［基本］タブの［白紙を節約する］が有効な場合でも、表紙は挿入されます。
- 表紙用の用紙は印刷する用紙と同じサイズのものを同じ方向にセットします。
- 印刷方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

トナーを節約して印刷する

トナーセーブ機能を使用して、トナーを節約します。

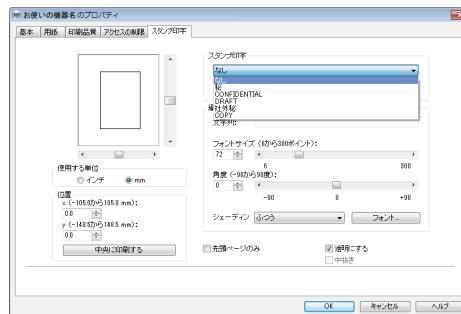
［印刷品質］タブの［トナーセーブ］で以下の項目を選択します。

- する
- しない

- 設定方法については、プリンタドライバーのヘルプを参照してください。

原稿に文字をスタンプする

プリンタードライバーでスタンプ印刷する方法について説明します。スタンプを設定すると、作成した文書に文字を重ねて印刷ができます。

1. アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバーの印刷設定を開きます。
2. ［スタンプ印字］タブをクリックします。
3. ［スタンプ印字］のプルダウンメニューからスタンプの種類を選択します。

4. その他の印刷の設定を必要に応じて指定し、［OK］をクリックします。
5. アプリケーションから印刷の指示を出します。

補足

- 印字のサイズが用紙サイズよりも大きい場合、正しくスタンプが印刷されません。
- 設定方法について詳しくは、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

スタンプの種類

スタンプの種類について説明します。

プリンタードライバーにはいくつかの文字スタンプがあらかじめ登録されています。登録されているスタンプの種類は次のとおりです。

- 秘

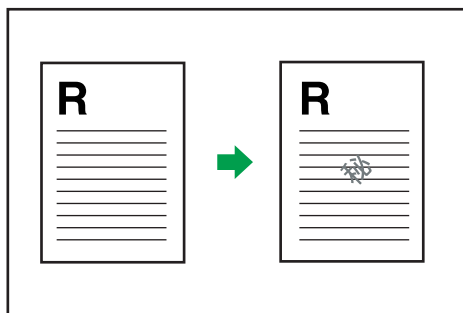
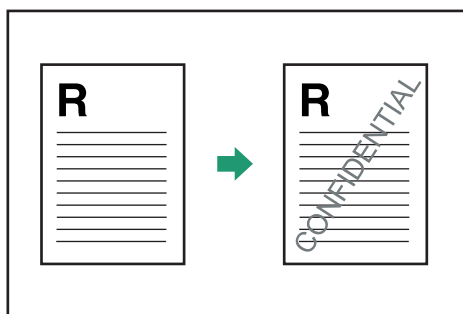
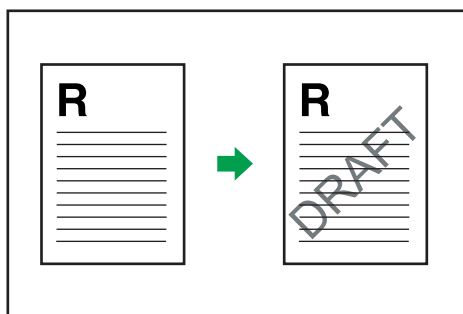
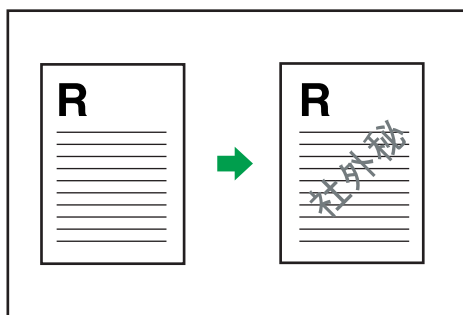
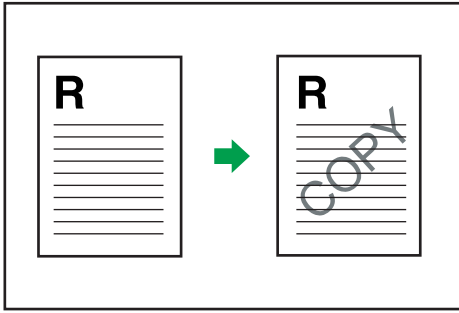
- CONFIDENTIAL

- DRAFT

- 社外秘

- COPY

R
R
COPY
CBK501

3

用紙エラーが発生したとき

用紙のサイズや種類が印刷データと合っていないときはエラーが発生します。このエラーを解除する方法を説明します。

重要

- ［システムセッテイ］メニューの［エラースキップ］が有効になっている場合、紙種および紙サイズの設定に関わらずセットされている用紙に印刷します。エラーが検知された場合は、印刷を一時中断し、約 10 秒後に操作部で指定した設定で印刷を再開します。

参照

- ［エラースキップ］については、P.66「システム設定メニュー」を参照してください。

強制印刷する

以下の手順で強制印刷をします。

1. 操作部にエラーメッセージが表示されたら、［ストップ/スタート］キーを押します。

印刷が実行されます。

補足

- 用紙を追加して印刷したい場合は、トレイに使用する用紙をセットし、［ストップ/スタート］キーを押してください。
- 印刷データに対して用紙が小さすぎると、画像の端が切れたりする場合があります。

印刷を中止するとき

強制印刷をせずに、印刷を中止する方法です。

1. ［ジョブリセット］キーを押します。

印刷を中止する

印刷を中止したいデータが、まだ印刷されていない場合の操作方法です。

操作部を使って印刷を中止する

印刷が完了していないデータは、操作部から印刷を中止できます。

1. ［ジョブリセット］キーを押します。

補足

- プリンターが複数のコンピュータで共有されている場合は、他のユーザーのプリントジョブを削除しないように気を付けてください。

パソコンから印刷を中止する

印刷が完了していないデータは、パソコンから印刷を中止できます。

ここでは、Windows 7 での使用方法を例に説明します。

1. パソコンのタスクバーでプリンターのアイコンを右クリックして、お使いの機器名をクリックします。
2. 中止したいデータを右クリックして、［キャンセル］をクリックします。
3. ［はい］をクリックします。

補足

- ［デバイスとプリンター］のプリンターアイコンを右クリックしてプリントジョブキューを開くことができます。
- 印刷の中止を選択したドキュメントの印刷が開始している場合は、プリンターのウィンドウからドキュメント名が消えるまで、多少時間がかかります。また、印刷の中止前に数ページ印刷されることがあります。
- プリントジョブのサイズが大きい場合は、中止までしばらくかかることがあります。
- 機密印刷ジョブを中止した場合、プリンターはジョブの数ページを機密印刷文書として保存している場合があります。この場合は、操作部で機密印刷文書を削除してください。

参照

- 機密印刷文書の削除について詳しくは、P.47「機密印刷文書を削除する」を参照してください。

4. 操作部で設定する

操作部を使って本機の設定を変更したり調整したりする方法について説明します。

本機は初期設定でも使用できますが、ご使用の状況に合わせて設定を変更できます。本機の電源を切っても設定の変更は保存されます。

本機の設定メニュー

操作部から以下のメニューを選択できます。詳しい設定方法と、各メニューの設定項目については、それぞれの該当箇所を参照してください。

用紙設定メニュー

P.60「用紙設定メニュー」

テスト印刷メニュー

P.64「リスト／テスト印刷メニュー」

システム設定メニュー

P.66「システム設定メニュー」

調整管理メニュー

P.69「調整管理メニュー」

インターフェース設定メニュー

P.71「インターフェース設定メニュー」

言語メニュー

P.76「表示言語メニュー」

用紙設定メニュー

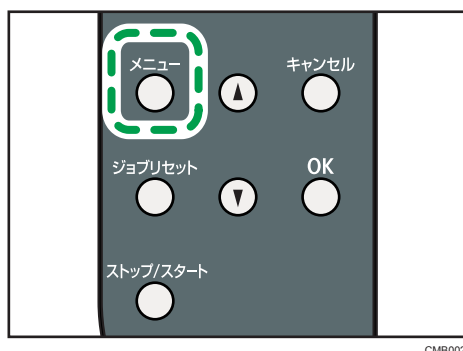
用紙設定メニューについて説明します。

このメニューには、以下の項目があります。

ヨウシサイズ
ヨウシシュルイ
ユウセン キュウシトレイ
テサシセッテイセンタク

4

用紙設定メニューを変更する

ここでは例として、優先給紙トレイの設定を変更する手順を説明します。

1. 操作部の［メニュー］キーを押します。

メニュー画面が表示されます。

2. [▼]［▲］キーを押して［ヨウシセッテイ］を表示させ、[OK］キーを押します。
3. [▼]［▲］キーを押して［ユウセン キュウシトレイ］を表示させ、[OK］キーを押します。
4. [▼]［▲］キーを押して使用するトレイを選択します。
5. [OK］キーを押します。

選択した項目にアスタリスクが付与されて 2 秒間表示されます。そして優先給紙トレイ設定画面に戻ります。

6. [メニュー］キーを押します。

通常の画面に戻ります。

用紙設定メニューの項目

用紙設定メニューの項目について説明します。各トレイごとの用紙サイズや用紙の種類が設定できます。

ヨウシサイズ

各トレイの用紙サイズを設定します。

- トレイ 1 ヨウシサイズ

  初期設定：[A4]

  A4、B5、A5、B6、A6、ユウビンハガキ、オウフクハガキ、8 1/2 × 14、8 1/2 × 11、5 1/2 × 8 1/2、7 1/4 × 10 1/2、8 × 13、8 1/2 × 13、8 1/4 × 13、フテイケイサイズ

- トレイ 2 ヨウシサイズ

  本メニューは、オプションの 250 枚増設トレイを装着した際にのみ表示されます。

  初期設定：[A4]

  A4、8 1/2 × 11、B5、A5、8 1/2 × 14、5 1/2 × 8 1/2

- テサシトレイヨウシサイズ

  初期設定：[A4]

  A4、B5、A5、B6、A6、ユウビンハガキ、オウフクハガキ、8 1/2 × 14、8 1/2 × 11、5 1/2 × 8 1/2、7 1/4 × 10 1/2、フテイケイサイズ

ヨウシシュルイ

各トレイの用紙種類を設定します。

- トレイ 1

  初期設定：[フツウシ]

  フツウシ、サイセイシ、イロガミ、インサツズミシ、パンチズミシ、レターヘッド、ボンドシ、カードストック、ラベルシ、ウスガミ、アツガミ 1、アツガミ 2

- トレイ 2

  本メニューは、オプションの 250 枚増設トレイを装着した際にのみ表示されます。

  初期設定：[フツウシ]

  フツウシ、サイセイシ、イロガミ、インサツズミシ、パンチズミシ、レターヘッド、ウスガミ、アツガミ 1

- テサシトレイ

  初期設定：[フツウシ]

フツウシ、サイセイシ、イロガミ、インサツズミシ、パンチズミシ、レターヘッド、ボンドシ、カードストック、ラベルシ、OHP、フウトウ、ウスガミ、アツガミ 1、アツガミ 2

ユウセン キュウシトレイ

給紙トレイが選択されていないときに、トレイ 1、トレイ 2、手差しトレイの中から優先的に給紙するトレイを選択します。

プリントジョブで自動トレイ選択が指定されている場合で、プリントジョブで指定した用紙に合致する用紙が複数のトレイにセットされているとき、プリンターは指定したトレイで印刷を実行します。

指定したトレイに用紙がない場合、プリンターは、自動的に他のトレイで印刷を実行します。［トレイ 2］は、オプションの 250 枚増設トレイを装着した際にのみ表示されます。

初期設定：[トレイ 1]

- トレイ 1
- トレイ 2
- テサシトレイ

テサシセッテイセンタク

手差しトレイでのプリントジョブ処理方法を設定します。

初期設定：[キキガワ]

- キキガワ

  プリンターでの設定に基づき、すべてのプリントジョブを印刷します。 指定した用紙サイズまたは用紙種類の設定が、プリンターとプリンタードライバーで異なる場合、エラーが発生します。

- ゼンサイズシュルイ キョカ

  プリンタードライバーでの設定に基づき、すべてのプリントジョブを印刷します。 指定した用紙サイズまたは用紙種類の設定が、プリンターとプリンタードライバーで異なる場合でも、印刷を実行します。プリントジョブに対して用紙サイズが小さい場合、画像がトリミングされます。

- ゼンフテイケイシュルイキョカ

  不定形サイズの場合、プリンタードライバーでの設定に基づき、すべてのプリントジョブを印刷します。

  不定形サイズのプリントジョブの場合、指定した用紙サイズまたは用紙種類の設定が、プリンターとプリンタードライバーで異なるときでも、印刷を実行します。プリントジョブに対して用紙サイズが小さい場合、画像がトリミングされます。

  定形サイズのプリントジョブの場合、エラーが発生します。

- 各トレイにセットする用紙サイズや用紙種類について詳しくは、『ハードウェアガイド』を参照してください。

リスト／テスト印刷メニュー

リスト／テスト印刷メニューについて説明します。

このメニューには、以下の項目があります。

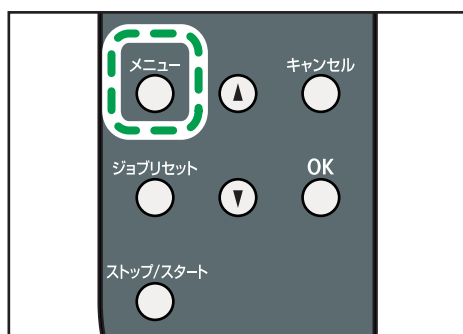
システムセッテイ　リスト
メニュー　リスト
テストページ
リョウメン　テストページ
メンテナンス　レポート

システム設定リストを印刷する

以下の手順に従って、システム設定リストを印刷します。

重要

- システム設定リストの印刷に使用できる用紙は、A4、レターサイズのみです。システム設定リストを印刷する前に、優先給紙トレイに用紙をセットしてください。

1. 操作部の［メニュー］キーを押します。

メニュー画面が表示されます。

2. ［▼］［▲］キーを押して［リスト／テスト　インサツ］を表示させ、［OK］キーを押します。
3. ［▼］［▲］キーを押して［システムセッテイ　リスト］を表示させ、［OK］キーを押します。

システム設定リストが印刷されます。

4. ［メニュー］キーを押します。

通常の画面に戻ります。

補足

- A4、レターサイズ以外の用紙で印刷を開始すると、エラーメッセージが表示されます。エラーメッセージが表示されたら、適切なサイズの用紙をセットして印刷するか、印刷を中止してください。

参照

- システム設定リストについては、P.113「システム設定リストの見かた」を参照してください。

リスト／テスト印刷メニューの設定項目

リスト／テスト印刷メニューの項目について説明します。

システムセッテイ　リスト

システム設定リストを印刷して現在の設定、全体情報を確認できます。

メニュー　リスト

メニューの一覧を印刷します。

テストページ

片面印刷のテストページを印刷します。 ネットワーク設定の情報も印字されます。

リョウメン　テストページ

両面印刷のテストページを印刷します。

メンテナンス レポート

メンテナンスレポートを印刷します。

システム設定メニュー

システム設定メニューでは、プリンターを使用する上で基本的な動作に関わる設定を行うことができます。通常は工場出荷時の設定のままでご使用になれますが、お客様の環境に合わせて変更できます。変更したシステム設定の内容は電源を切っても保存されます。

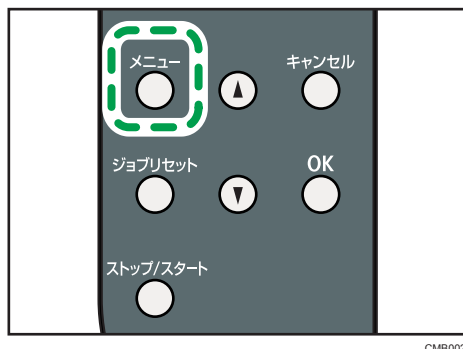
このメニューには、以下の項目があります。

エラースキップ
デフォルト　ヨウシサイズ
ハクシ ハイシ
ヨネツモード
ショウエネ モード
セッテイヲ ショキカ
ガゾウノウド

4

システム設定メニューを変更する

ここでは例として、省エネモードの時間を変更する手順について説明します。

1. 操作部の［メニュー］キーを押します。

メニュー画面が表示されます。

2. ［▼］［▲］キーを押して［システムセッテイ］を表示させ、［OK］キーを押します。
3. ［▼］［▲］キーを押して［ショウエネ モード］を表示させ、［OK］キーを 2 回押します。
4. ［▼］［▲］キーを押して［スル］を表示させ、［OK］キーを押します。

5. [▼][▲]キーを押して[イコウジカン セッテイ]を表示させ、[OK]キーを押します。

6. [▼][▲]キーを押して省エネモードに移行する時間を選び、[OK]キーを押します。

   選択した時間にアスタリスクが付与されて 2 秒間表示されます。そして省エネモード設定画面に戻ります。

7. [メニュー]キーを押します。

   通常の画面に戻ります。

システム設定メニューの設定項目

システム設定メニューの項目について説明します。

エラースキップ

用紙サイズや用紙種類のエラーを無視して印刷を続けます。エラーが検知されると印刷が一時的に停止し、約 10 秒後に操作部の設定で自動的に再開します。

[スル]に設定してエラーが発生したときでも、現在の印刷がキャンセルされ、自動的に次の印刷を開始する場合があります。

初期設定:[シナイ]

- スル
- シナイ

デフォルト　ヨウシサイズ

印刷データで用紙サイズが指定されていないときに使用する用紙のサイズを設定します。

初期設定:[A4]

- A4、B5、A5、B6、A6、8 1/2 × 14、8 1/2 × 11、5 1/2 × 8 1/2、7 1/4 × 10 1/2、8 × 13、8 1/2 × 13、8 1/4 × 13、ユウビンハガキ、オウフクハガキ

ハクシ ハイシ

白紙ページを印刷するかしないかを選択します。

プリンタードライバーを使用して印刷する場合、この設定は無効となります。

初期設定:[スル]

- スル
- シナイ

ヨネツモード

プリンターの待機状態が 30 秒続いた場合に予熱モードに移行するかしないかを選択します。電源 Off または省エネモードよりも早く復旧しますが、省エネモードよりも電力を消費します。

「チョウセイ/カンリ」の「テイシツド モード」が有効になっている場合、予熱モードの設定が有効でなくとも、予熱モードに移行します。

初期設定：[シナイ]

- シナイ
- スル（30 秒）

ショウエネ モード

待機状態のまま設定された時間が経過すると、省エネモードに移行します。省エネモードは、電力の消費量が低く抑えられますが、予熱モードよりも復旧に時間が掛かります。

- ショウエネ モード

  省エネモードに移行するかしないかを選択します。省エネモードに移行すると、操作部の画面とランプは消灯しますが、電源の LED は点灯したままです。

  「ショウエネ モード」を有効にしていても、「チョウセイ/カンリ」の「テイシツド モード」が有効になっている場合は、2 時間が経過するまでは省エネモードに移行しません。

  初期設定：[スル]

  - スル
  - シナイ

- イコウジカン セッテイ

  省エネモードに移行する時間を設定します。

  初期設定：[1 フン]

  1〜240 分（1 分刻み）

セッテイヲ ショキカ

工場出荷時の設定に戻します。

操作部にプリンターの再起動を要求するメッセージが表示されたら、電源を入れ直してください。

ガゾウノウド

印刷時の画像の濃度を調整します。

初期設定：0

- -3〜+3

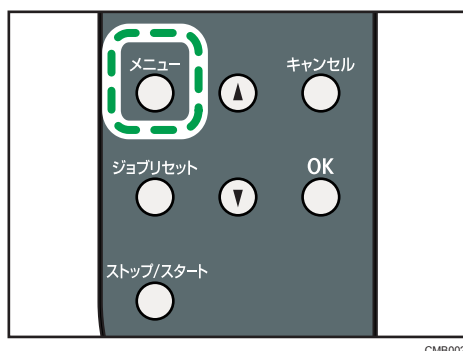
調整管理メニュー

調整管理メニューについて説明します。

このメニューには、以下の項目があります。

インサツイチ　チョウセイ
テイシツド　モード

調整管理メニューを変更する

ここでは例として、低湿度モードの設定を変更する手順について説明します。

1. 操作部の［メニュー］キーを押します。

メニュー画面が表示されます。

2. ［▼］［▲］キーを押して［チョウセイ/カンリ］を表示させ、［OK］キーを押します。
3. ［▼］［▲］キーを押して［テイシツド　モード］を表示させ、［OK］キーを押します。
4. ［▼］［▲］キーを押して［スル］か［シナイ］を選択し、［OK］キーを押します。
5. ［メニュー］キーを押します。

通常の画面に戻ります。

調整管理メニューの設定項目

調整管理メニューの項目について説明します。

インサツイチ　チョウセイ

印刷位置を-15 から+15 の間で調整します（-1.5〜+1.5 mm、0.1 mm 単位)。

［ヨコ：トレイ 2］と［タテ：トレイ 2］は、250 枚増設トレイ（トレイ 2）が装着されている場合に表示されます。

初期設定：0

- ヨコ： トレイ 1

  トレイ 1 の横方向の印刷位置を調整します。

- タテ： トレイ 1

  トレイ 1 の縦方向の印刷位置を調整します。

- ヨコ： トレイ 2

  250 枚増設トレイ（トレイ 2）の水平方向の印刷位置を調整します。

- タテ： トレイ 2

  250 枚増設トレイ（トレイ 2）の送り方向の印刷位置を調整します。

- ヨコ： テサシトレイ

  手差しトレイの横方向の印刷位置を調整します。

- タテ： テサシトレイ

  手差しトレイの縦方向の印刷位置を調整します。

- ヨコ： リョウメン：ウラ

  裏面印刷の横方向の印刷位置を調整します。

- タテ： リョウメン：ウラ

  裏面印刷の縦方向の印刷位置を調整します。

テイシツド　モード

湿度が低い環境で印刷すると、数ミリ幅の黒い筋が 75 ミリ間隔で出ることがあります。

［スル］を選択すると、黒い筋を防止できる場合があります（有効にしたあと、設定の効果が出るまで約 1 日掛かります)。

この設定を有効にすると、本機は 10 分毎に機械内部の自動調整行います。

「テイシツド モード」が有効になっている場合は、「ショウエネ モード」が有効になっていても、2 時間が経過するまで省エネモードに移行しません。ただし、予熱モードには、「ヨネツモード」が有効になっていない場合でも移行します。

初期設定：[シナイ]

- シナイ
- スル

インターフェース設定メニュー

インターフェース設定メニューでは、ネットワーク接続に関する設定と、パソコンと本機をUSBケーブルで接続している場合の通信に関する設定をします。変更したインターフェース設定の内容は電源を切っても保持されます。

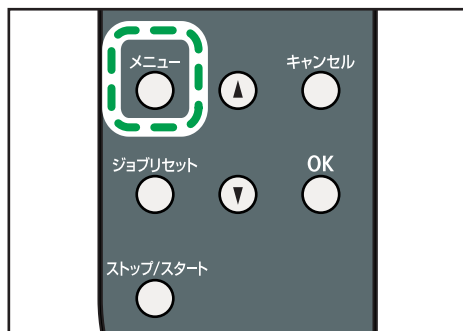
このメニューには、以下の項目があります。

タイムアウト：キミツインサツ
タイムアウト：USB
タイムアウト：ネットワーク
ネットワークセッテイ
USBポートコテイ

4

インターフェース設定メニューを変更する

ここでは例として、ネットワーク設定を変更する手順を説明します。

1. 操作部の［メニュー］キーを押します。

メニュー画面が表示されます。

2. ［▼］［▲］キーを押して［インターフェースセッテイ］を表示させ、［OK］キーを押します。
3. ［▼］［▲］キーを押して［ネットワークセッテイ］を表示させ、［OK］キーを押します。
4. ［▼］［▲］キーを押して［IPv4セッテイ］を表示させ、［OK］キーを押します。
5. ［▼］［▲］キーを押して［DHCP］を表示させ、［OK］キーを押します。

6. **[▼][▲]キーを押して[ユウコウ]または[ムコウ]をネットワーク環境に応じて選び、[OK]キーを押します。**

[ユウコウ]を選択した場合は、手順 10 に進みます。

7. **[▼][▲]キーを押して[IP アドレス]を表示させ、[OK]キーを押します。**

8. **[▼][▲]キーを押してプリンターの IPv4 アドレスを設定し、[OK]キーを押します。**

- 次のフィールドに進むには、[OK]キーを押します。
- 前のフィールドに戻るには、[キャンセル]キーを押します。

9. **「サブネットマスク」と「ゲートウェイアドレス」を設定してください。**

IPv4 アドレスの設定手順と同じように、各設定を行ってください。

10. **[メニュー]キーを押します。**

通常の画面に戻ります。操作部にプリンターの再起動を要求するメッセージが表示されたら、電源を入れ直してください。

インターフェース設定メニューの設定項目

インターフェース設定メニューの設定項目について説明します。

タイムアウト: キミツインサツ

プリンターが機密印刷ファイルをこれ以上保存することができなくなった場合に、新しい機密印刷ファイルをプリンターで保持する時間(秒)を指定します。設定した時間の間、新しい機密印刷ファイルを印刷または削除することができます。現在保存している機密印刷ファイルを印刷または削除し、新しい機密印刷ファイルをプリンターに保存するようにもできます。

初期設定:[60]

0〜300 秒

タイムアウト: USB

USB 経由でプリントジョブを受信している途中で受信データが途切れたときに、続きのデータを待つ時間を設定します。

もし他ポートからのデータ受信により頻繁に中断する場合、タイムアウトの時間を増やしてください。

初期設定:[60 ビョウ]

- 15 ビョウ
- 60 ビョウ
- 300 ビョウ

タイムアウト： ネットワーク

ネットワークでプリンターを使用しているパソコンからプリントジョブを受信している途中で受信データが途切れたときに、続きのデータを待つ時間を設定します。

初期設定：[60 ビョウ]

- 15 ビョウ
- 60 ビョウ
- 300 ビョウ

ネットワークセッテイ

ネットワーク関連の設定をします。

- イーサネットソクドセッテイ

  イーサネットの通信速度を設定します。

  初期設定：[ジドウセッテイ]

  - ジドウセッテイ
  - 10M ハンニジュウ
  - 10M ゼンニジュウ
  - 100M ハンニジュウ
  - 100M ゼンニジュウ

- IPsec

  IPsec を有効にするか無効にするかを設定します。

  初期設定：[シナイ]

  - スル
  - シナイ

- ブツリアドレス

  プリンターの MAC アドレスが表示されます。

- IPv4 セッテイ

  - DHCP

    DHCP サーバーから IP アドレス、サブネットマスク、およびデフォルトのゲートウェイアドレスを自動で取得するかしないかを設定します。

    初期設定：[ムコウ]

    - ムコウ
    - ユウコウ

  - IP アドレス

    プリンターの IPv4 アドレスを設定します。

DHCP が［ユウコウ］のときは、IP アドレスを変更できません。変更するには、［ムコウ］に設定してください。

初期設定：[192.0.0.192]

- サブネットマスク

  サブネットマスクを設定します。

  DHCP が［ユウコウ］のときは、サブネットマスクを変更できません。変更するには、［ムコウ］に設定してください。

  初期設定：[255.255.255.0]

- ゲートウェイアドレス

  ゲートウェイアドレスを設定します。

  DHCP が［ユウコウ］のときは、ゲートウェイアドレスを変更できません。変更するには、［ムコウ］に設定してください。

  初期設定：[192.0.0.192]

- IP アドレス ホウシキ

  IP アドレス取得方式を表示します。

  - DHCP
  - オート IP
  - シュドウセッテイ
  - デフォルト IP

- IPv6 セッテイ
  - IPv6

    IPv6 を有効にするか無効にするかを設定します。

    初期設定：[スル]

    - スル
    - シナイ

  - DHCP

    DHCP サーバーから IPv6 アドレスを自動で取得するかしないかを設定します。

    初期設定：[シナイ]

    - シナイ
    - スル

  - IP アドレス(DHCP)

    DHCP サーバーで取得した IPv6 アドレスを表示します。

  - シュドウセッテイアドレス

- シュドウセッテイアドレス

  任意で IPv6 アドレスを設定します。39 文字まで入力できます。
- プレフィックスチョウ

  プレフィックス長を 0～128 の値で指定します。
- ゲートウェイアドレス

  デフォルトゲートウェイの IPv6 アドレスを設定します。39 文字まで入力できます。

- ステートレスアドレス

  ルーター通知で取得した IPv6 ステートレスアドレスを表示します。
  - アドレス 1
  - アドレス 2
  - アドレス 3
  - アドレス 4
- リンクローカルアドレス

  IPv6 リンクローカルを表示します。

USB ポートコテイ

USB 接続の際、複数のプリンターを同じプリンタードライバーで制御するかどうかを設定します。

初期設定：[シナイ]

- スル

  プリンターが同じ機種である場合、元々使用するためにインストールしたプリンタードライバーで、違うプリンターを制御することができます。
- シナイ

  USB 接続の場合、異なるプリンターは新しいデバイスとして認識されるため、プリンターごとに個別のプリンタードライバーをインストールする必要があります。

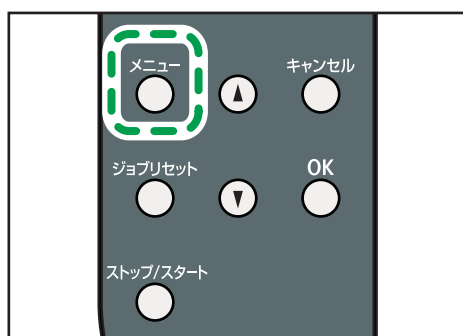
- ネットワークの設定については、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

表示言語メニュー

言語メニューについて説明します。

このメニューには、以下の項目があります。

ニホンゴ
ブラジルポルトガルゴ
エイゴ
ドイツゴ
フランスゴ
イタリアゴ
オランダゴ
スウェーデンゴ
ノルウェーゴ
デンマークゴ
スペインゴ
フィンランドゴ
ポルトガルゴ

操作部の画面に表示する言語を変更する手順について説明します。

1. 操作部の［メニュー］キーを押します。

メニュー画面が表示されます。

2. [▼]［▲］キーを押して［ヒョウジゲンゴ］を表示させ、[OK］キーを押します。

3. [▼]［▲］キーを押して言語を選び、[OK］キーを押します。

4. ［メニュー］キーを押します。

通常の画面に戻ります。

5. 機器の監視

Web Image Monitor を使用して、本機の状態確認や設定をする方法について説明します。

Web Image Monitor を使う

Web Image Monitor を使用して、プリンターの状態を確認したり、本機の設定を変更できます。

Web Image Monitor でできること

Web Image Monitor を使用すると、ネットワークを介したパソコンの Web ブラウザー上で、離れた場所にある機器の状態の確認や設定の変更ができます。

以下のようなことが可能です。

- プリンターの状態、カウンター情報、機器情報の表示
- プリンターの設定
- ユーザー制限の設定
- ネットワークの設定
- IPsec の設定
- リストの印刷
- 管理者パスワードの設定
- プリンター設定の初期化
- プリンター設定のバックアップファイル作成
- バックアップファイルからのプリンター設定の復元
- ヘルプソースファイルの設定

本機の環境設定

Web Image Monitor の機能は、TCP/IP プロトコルで使用できます。Web Image Monitor を使用する場合は、本機で TCP/IP プロトコルの設定を行ってください。

TCP/IP の設定が正しく行われていると、使用できます。

推奨ブラウザー

- Internet Explorer 6 以降
- Firefox 3.0 以降
- Safari 3.0 以降

補足

- 使用するブラウザーのバージョンが推奨するバージョンより低い場合や、使用するブラウザーの設定で、「JavaScript」、「Cookie の使用許可」が有効になっていない場合は、表示や操作に不具合が生じる場合があります。

- プロキシサーバーをご使用の場合、本機との接続にプロキシサーバーを経由しない設定にしてください。詳しくはネットワーク管理者に確認してください。
- ブラウザーの［戻る］で前のページに戻れないことがあります。そのときはブラウザーの［更新］または［再読み込み］をクリックしてください。
- Web Image Monitor で取得できる情報は、自動的に更新されません。情報を更新する場合は、メインエリアの［最新の情報に更新］をクリックしてください。
- Web Image Monitor は同じネットワークで使用することを推奨しています。
- DHCP でプリンターを使用する場合、IP アドレスは、DHCP サーバー設定により自動的に変更される場合があります。
- HTTP ポートが無効な場合、プリンターの URL を使用して、プリンターに接続できません。

トップページを表示する

Web Image Monitor のトップページの表示方法を説明します。

トップページの表示方法

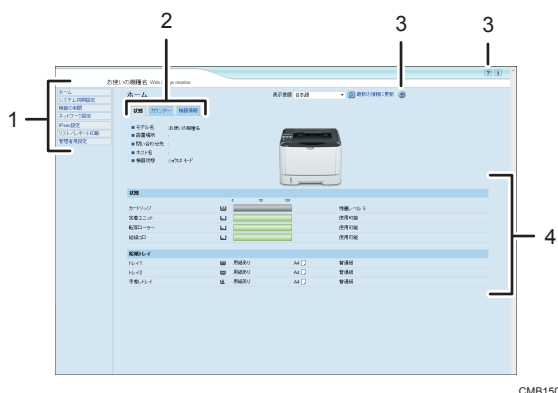
1. **Web ブラウザーを起動します。**
2. **Web ブラウザーのアドレスバーに「http://（本機の IP アドレス）/」と入力し、本機にアクセスします。**

Web Image Monitor のトップページが表示されます。

DNS サーバーを使用し、本機のホスト名が登録されている場合、ホスト名を入力できます。

トップページ

Web Image Monitor のページはフレーム機能によって次のエリアに分割表示されます。

CMB150

1. **メニューエリア**

   ［ホーム］、［システム初期設定］、［機能の制限］、［ネットワーク設定］、［IPsec設定］、［リスト／レポート印刷］、［管理者用設定］を選択すると、各設定ページの内容が表示されます。

2. **タブエリア**

   ［状態］タブ、［カウンター］タブ、［機器情報］タブの3つのタブがあります。それぞれのタブをクリックすると、プリンターの状態とカウンター情報が表示されます。

3. **ヘルプ**

   ［?］または［?］をクリックすると、ヘルプ画面が表示されます。

4. **メインエリア**

   メニューエリアで選択された項目の内容を表示します。

   メインエリアの情報は自動的に更新されません。情報を更新したい場合は、同エリア右上の［最新の情報に更新］をクリックしてください。なお、Webブラウザー画面全体を更新したい場合は、ブラウザーの［最新の情報に更新］をクリックしてください。

補足

- ヘルプ画面を表示するには、管理者があらかじめヘルプファイルのパスを設定しておく必要があります。

表示言語を変更する

使用したい表示言語を［表示言語］ボックスから選択してください。

システム情報を確認する

［ホーム］をクリックして、Web Image Monitor のメインページを表示します。メインページでは、現在のシステム情報を確認できます。

このページには、以下の 3 つのタブがあります：［状態］、［カウンター］、［機器情報］。

機器の状態を確認する

メインページの［状態］タブをクリックして、システム情報、給紙トレイの状況、およびトナーの残量や各消耗品の寿命を表示します。

項目	説明
モデル名	本機の名前を表示します。
設置場所	［SNMP］ページで登録した本機の設置場所を表示します。
問い合わせ先	［SNMP］ページで登録した本機の問い合わせ先を表示します。
ホスト名	［DNS］ページで登録した本機のホスト名を表示します。
機器状態	操作部の画面に表示されている現在のメッセージを表示します。

状態

項目	説明
カートリッジ	プリントカートリッジの残量です。
定着ユニット	定着ユニットの寿命を［使用可能］、［交換間近］、［交換時期］で表示します。 交換する場合は、サービス実施店にご連絡ください。
転写ローラー	転写ローラーの寿命を［使用可能］、［交換間近］、［交換時期］で表示します。 交換する場合は、サービス実施店にご連絡ください。

項目	説明
給紙コロ	給紙コロの寿命を［使用可能］、［交換間近］、［交換時期］で表示します。 交換する場合は、サービス実施店にご連絡ください。

給紙トレイ

項目	説明
トレイ 1	トレイ 1 の状態、用紙サイズと種類を表示します。
トレイ 2	トレイ 2 の状態、用紙サイズと種類を表示します。
手差しトレイ	手差しトレイの状態、用紙サイズと種類を表示します。

補足

- 250 枚増設トレイが装着されている場合のみ、トレイ 2 の情報が表示されます。
- リコー純正品以外のトナーカートリッジを使うと、正確なトナーの寿命が表示されません。

参照

- 設置場所、問い合わせ先について詳しくは、P.95「SNMP の設定をする」を参照してください。
- プリンターのホスト名について詳しくは、P.93「DNS の設定をする」を参照してください。

カウンター情報を確認する

メインページの［カウンター］タブをクリックして、カウンター情報を確認します。

出力カウンター

項目	説明
トータルページ	本機で印刷された以下のページの総数を表示します。 • プリンター機能で印刷したページ数 • ［リスト／テストインサツ ］から印刷したページ数

両面

項目	説明
両面カウンター	両面印刷されたページの総数を表示します（表面と裏面を合わせて「1」とカウントされます）。

補足

- ［出力カウンター］では、両面印刷は「2」とカウントされます。

機器情報を確認する

メインページの［機器情報］タブをクリックして、機器の情報を確認します。

機器情報

項目	説明
ファームウェアバージョン	本機にインストールされているファームウェアのバージョンを表示します。
エンジンファームウェアバージョン	本機エンジンのファームウェアのバージョンを表示します。
機番	本機のシリアルナンバーです。
搭載メモリー	本機に搭載されているメモリーの総容量を表示します。

機器設定を変更する

［システム初期設定］をクリックして、システム初期設定のページを表示します。

このページには、以下の 2 つのタブがあります：[用紙設定]、[インターフェース切り替え時間]。

用紙の設定を変更する

システム初期設定ページの［用紙設定］タブをクリックして、用紙設定をするページを表示します。

トレイ 1

項目	説明
用紙サイズ	トレイ 1 の用紙サイズを、次の中から選びます： A4、B5 JIS、A5、B6 JIS、A6、8 1/2 × 14、8 1/2 × 11、5 1/2 × 8 1/2、7 1/4 × 10 1/2、8 × 13、8 1/2 × 13、8 1/4 × 13、郵便ハガキ、往復ハガキ、不定形サイズ
用紙種類	トレイ 1 の用紙の種類を、次の中から選びます： 薄紙（52～64g/m2）、厚紙 1（100～130g/m2）、厚紙 2（131～162g/m2）、普通紙、再生紙、色紙、印刷済み紙、パンチ済み紙、レターヘッド、ボンド紙、カードストック、ラベル紙

トレイ 2

項目	説明
用紙サイズ	トレイ 2 の用紙サイズを、次の中から選びます： A4、B5 JIS、A5、8 1/2 × 14、8 1/2 × 11、5 1/2 × 8 1/2
用紙種類	トレイ 2 の用紙の種類を、次の中から選びます： 薄紙（52～64g/m2）、厚紙 1（100～130g/m2）、普通紙、再生紙、色紙、印刷済み紙、パンチ済み紙、レターヘッド

手差しトレイ

項目	説明
用紙サイズ	手差しトレイの用紙サイズを、次の中から選びます： A4、B5 JIS、A5、B6 JIS、A6、8 1/2 × 14、8 1/2 × 11、5 1/2 × 8 1/2、7 1/4 × 10 1/2、郵便ハガキ、往復ハガキ、不定形サイズ
用紙種類	手差しトレイの用紙の種類を、次の中から選びます： 薄紙（52～64g/m2)、厚紙 1（100～130g/m2)、厚紙 2（131～162g/m2)、普通紙、再生紙、色紙、印刷済み紙、パンチ済み紙、レターヘッド、ボンド紙、カードストック、ラベル紙、封筒、OHP

優先トレイ

項目	説明
優先トレイ	給紙トレイが選択されていないときに、トレイ 1、トレイ 2、手差しトレイの中から優先的に給紙するトレイを選択します。 プリントジョブで自動トレイ選択が指定されている場合で、プリントジョブで指定した用紙に合致する用紙が複数のトレイにセットされているとき、プリンターは指定したトレイで印刷を実行します。 指定したトレイに用紙がない場合、プリンターは、自動的に他のトレイで印刷を実行します。

手差しトレイ設定選択

項目	説明
手差しトレイ設定選択	手差しトレイでのプリントジョブ処理方法を設定します。 • [システム初期設定] プリンターでの設定に基づき、すべてのプリントジョブを印刷します。 指定した用紙サイズまたは用紙種類の設定が、プリンターとプリンタードライバーで異なる場合、エラーが発生します。 • [全用紙サイズ・用紙種類許可] プリンタードライバーでの設定に基づき、すべてのプリントジョブを印刷します。 指定した用紙サイズまたは用紙種類の設定が、プリンターとプリンタードライバーで異なる場合でも、印刷を実行します。プリントジョブに対して用紙サイズが小さい場合、画像がトリミングされます。 • [全不定形サイズ・用紙種類許可] 不定形サイズの場合、プリンタードライバーでの設定に基づき、すべてのプリントジョブを印刷します。 不定形サイズのプリントジョブの場合、指定した用紙サイズまたは用紙種類の設定が、プリンターとプリンタードライバーで異なるときでも、印刷を実行します。プリントジョブに対して用紙サイズが小さい場合、画像がトリミングされます。 定形サイズのプリントジョブの場合、エラーが発生します。

補足

- 250 枚増設トレイが装着されている場合のみ、トレイ 2 の情報が表示されます。

インターフェース切り替え時間を設定する

システム初期設定ページの［インターフェース切り替え時間］タブをクリックし、インターフェース切り替え時間を設定します。

インターフェース切り替え時間

項目	説明
USB ポート固定	複数のプリンターを同じプリンタードライバーで制御するかどうかを設定します。 本設定を有効にした場合、プリンターが同じ機種のとき、元々使用するためにインストールしたプリンタードライバーで違うプリンターを制御することができます。 本設定を無効にした場合、USB 接続のとき、異なるプリンターは新しいデバイスとして認識されるため、プリンター個別のプリンタードライバーをインストールする必要があります。
機密印刷タイムアウト（秒）	プリンターが機密印刷ファイルをこれ以上保存することができなくなった場合に、新しい機密印刷ファイルをプリンターで保持する時間（0～300 秒）を指定します。設定した時間の間、新しい機密印刷ファイルを印刷または削除することができます。現在保存している機密印刷ファイルを印刷または削除し、新しい機密印刷ファイルをプリンターに保存するようにもできます。

ユーザーごとに印刷機能を制限する

ユーザーが印刷機能を使用しようとする場合に、ユーザーコードを要求するように設定することができます。

Web Image Monitor を使用して、印刷機能にユーザー制限をかけます。

認証をかけるかどうかをユーザーごとに設定することができます。最大で 30 ユーザーを登録できます。

参照

- ユーザー制限設定について詳しくは、P.37「ユーザーごとに印刷機能を制限する」を参照してください。

ネットワークの設定をする

［ネットワーク設定］をクリックして、ネットワーク設定ページを表示します。

このページには、以下の 8 つのタブがあります：［ネットワーク情報］、［IPv6 設定］、［ネットワーク設定］、［DNS］、［自動メール通知］、［SNMP］、［SMTP］、［POP3］。

ネットワーク設定をする

ネットワーク設定ページの［ネットワーク情報］タブをクリックして、ネットワーク設定をするページを表示します。

ネットワーク情報

項目	説明
イーサネット速度	ネットワーク接続の種類および速度を表示します。
IPP プリンター名	ネットワーク上で本機を識別するために使用する名前を表示します。
ネットワークバージョン	ネットワークモジュールのバージョン（本機ファームウェアの一部）を表示します。
物理アドレス	本機の MAC アドレスを表示します。

TCP/IP 情報

項目	説明
DHCP	DHCP を使って、本機が IPv4 アドレスを自動的に取得するかどうか選択します。DHCP を使用するには、［有効］を選んでください。有効にした場合、［IP アドレス］、［サブネットマスク］、［ゲートウェイアドレス］は無効になります。
IP アドレス	本機の IPv4 アドレスを入力します。
サブネットマスク	ネットワークのサブネットマスクを入力します。
ゲートウェイアドレス	ネットワークのゲートウェイアドレスを入力します。

IPv6 を設定する

ネットワーク設定ページの［IPv6 設定］タブをクリックし、IPv6 の設定を行います。

IPv6

項目	説明
IPv6	IPv6 を有効にするか無効にするかを設定します。プリンターが IPv6 環境で使用されている場合、Web Image Monitor で IPv6 を無効にすることはできません。その場合、操作部の［ネットワークセッテイ］の［IPv6］を無効にしてください。 無効にした場合、［DHCP］、［手動設定アドレス］、［プレフィックス長］、［ゲートウェイアドレス］も無効になります。

IPv6 アドレス

項目	説明
DHCP	DHCP サーバーから IPv6 アドレスを自動で取得するかしないかを設定します。
IP アドレス (DHCP)	［DHCP］を［有効］に設定した場合の DHCP サーバーで取得した IPv6 アドレスを表示します。
ステートレスアドレス	4 つのステートレス自動アドレスを表示します。
ゲートウェイアドレス	デフォルトゲートウェイアドレスを表示します。
リンクローカルアドレス	プリンターのリンクローカルアドレスを表示します。リンクローカルアドレスはローカルネットワーク環境でのみ有効なアドレスです。
手動設定アドレス	任意で IPv6 アドレスを設定します。39 文字まで入力できます。
プレフィックス長	プレフィックス長を 0～128 の値で入力します。
ゲートウェイアドレス	デフォルトゲートウェイの IPv6 アドレスを設定します。39 文字まで入力できます。

5

参照

- [IPv6]について詳細は、P.71「インターフェース設定メニュー」を参照してください。

印刷プロトコルを設定する

ネットワーク設定ページの［ネットワーク設定］タブをクリックして、印刷プロトコルを設定するページを表示します。

ネットワーク印刷設定

項目	説明
IPP	インターネット印刷プロトコルを使った TCP/IP ネットワーク印刷を有効にします（TCP ポート 631/80 を使用します）。
FTP	本機内蔵の FTP プロトコルを使ったネットワーク印刷を有効にします（TCP ポート 20/21 を使用します）。
RAW	raw 印刷を有効にします。
ポート番号	raw 印刷に使用する TCP ポートの番号を入力します。有効なポート番号は 1024～65535 で、49999 および、53550 は除きます（デフォルト：9100）。
LPR	LPR/LPD を使ったネットワーク印刷を有効にします（TCP ポート 515 を使用します）。

mDNS 設定

項目	説明
mDNS	マルチキャスト DNS を有効にします（UDP ポート 5353 を使用します）。無効にした場合、［プリンター名］の項目は設定できません。
プリンター名	本機の名前を入力します。最大 32 文字まで入力できます。

DNS の設定をする

ネットワーク設定ページの［DNS］タブをクリックして、DNS 設定をするページを表示します。

DNS

項目	説明
DNS 方式	手動でドメインサーバーを指定するか、ネットワークを通して自動的に DNS 情報を受け取るかを選択します。［自動的に取得（DHCP）］にした場合、［プライマリー DNS サーバー］、［セカンダリー DNS サーバー］、［ドメイン名］は無効になります。
プライマリー DNS サーバー	プライマリー DNS の IPv4 アドレスを入力します。
セカンダリー DNS サーバー	セカンダリー DNS の IPv4 アドレスを入力します。
ドメイン名	本機のドメイン名を入力します。最大 32 文字まで入力できます。
IPv6DNS 方式	ドメインサーバーを任意で指定するか、DNS 情報を自動的に取得するかどうかを設定します。 ［自動的に取得（DHCP）］が設定された場合、［IPv6 プライマリー DNS サーバー］、［IPv6 セカンダリー DNS サーバー］、［IPv6 ドメイン名］は選択不可となります。
IPv6 プライマリー DNS サーバー	IPv6 プライマリー DNS サーバーの IPv6 アドレスを入力します。39 文字まで入力できます。
IPv6 セカンダリー DNS サーバー	IPv6 セカンダリー DNS サーバーの IPv6 アドレスを入力します。39 文字まで入力できます。
IPv6 ドメイン名	プリンターの IPv6 ドメイン名を入力します。32 文字まで入力できます。
DNS 名前解決優先	IPv4 または IPv6 のどちらに DNS 名前解決の優先を与えるかを設定します。
DNS タイムアウト（秒）	DNS 要求をタイムアウトにするまでの最大待ち時間を入力します（1〜999）。

5

項目	説明
ホスト名	本機のホスト名を入力します。最大 15 文字まで入力できます。

自動メール通知の設定をする

ネットワーク設定ページの［自動メール通知］タブをクリックして、自動メール通知を設定するページを表示します。

メール通知 1/メール通知 2

項目	説明
表示名	自動通知メールの送信者名を入力します。最大 32 文字まで入力できます。
メールアドレス	自動通知メールのあて先となるアドレスを入力します。最大 64 文字まで入力できます。
用紙づまり	紙づまりが発生したときに、指定アドレスに自動通知メールを送信します。
用紙なし	用紙が切れたときに、指定アドレスに自動通知メールを送信します。
カートリッジ交換間近	トナーが少なくなったときに、指定アドレスに自動通知メールを送信します。
サービスコール	本機故障などの問題が発生したときに、指定アドレスに自動通知メールを送信します。
カートリッジ交換時期	トナーが切れたときに、指定アドレスに自動通知メールを送信します。
カバーオープン	カバーが開いているときに、指定アドレスに自動通知メールを送信します。

SNMP の設定をする

ネットワーク設定ページの［SNMP］タブをクリックして、SNMP 設定をするページを表示します。

SNMP

項目	説明
SNMP	本機が SNMP サービスを使えるようにするかどうか選択します。

Trap

項目	説明
Trap 送信	本機が管理ホスト(NMS)にトラップを送信できるようにするかどうか選択します。 本設定が［無効］に設定された場合、［SNMP マネージャーアドレス 1］と［SNMP マネージャーアドレス 2］は選択不可となります。
SNMP マネージャーアドレス 1	IP アドレスか、管理ホストのホスト名を入力します。最大 64 文字まで入力できます。
SNMP マネージャーアドレス 2	IP アドレスか、管理ホストのホスト名を入力します。最大 64 文字まで入力できます。

コミュニティー

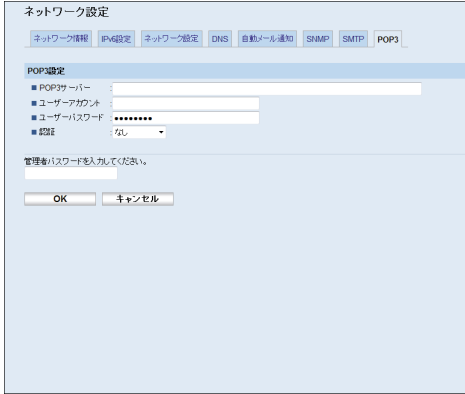
項目	説明
Get コミュニティー	Get 要求の認証に使用するコミュニティ名を入力します。最大 32 文字まで入力できます。
Trap コミュニティー	Trap 要求の認証に使用するコミュニティ名を入力します。最大 32 文字まで入力できます。

5

システム

項目	説明
設置場所	本機の設置場所を入力します。ここで入力した場所は、メインページに表示されます。最大 64 文字まで入力できます。
問い合わせ先	連絡先の情報を入力します。ここで入力した連絡先の情報は、メインページに表示されます。最大 64 文字まで入力できます。

SMTP の設定をする

ネットワーク設定ページの［SMTP］タブをクリックして、SMTP 設定をするページを表示します。

SMTP

項目	説明
プライマリー SMTP サーバー	IP アドレスか、SMTP サーバーの名前を入力します。最大 64 文字まで入力できます。
ポート番号	SMTP のポート番号を入力します。（1～65535）
認証種類	認証方式を以下から選択してください。 ［しない］：ユーザー名およびパスワードは必要ありません。 ［SMTP］：本機は NTLM および LOGIN 認証に対応しています。 ［POP before SMTP］：認証には POP3 サーバーを使用します。メールを SMTP サーバーに送信する場合、POP サーバーにアクセスして認証を行うことにより、SMTP サーバーのセキュリティーレベルを高めることができます。
認証ユーザー名	SMTP サーバーにログインするユーザー名を入力します。最大 32 文字まで入力できます。
認証パスワード	SMTP サーバーにログインするパスワードを入力します。最大 32 文字まで入力できます。

項目	説明
機器メールアドレス	システム管理者のメールアドレスを入力します。このアドレスは、自動通知メール通知などの本機から送信されるメールの送信者アドレスとして使用されます。最大 64 文字まで入力できます。
サーバータイムアウト（秒）	SMTP 操作をタイムアウトにするまでの待ち時間を入力します（1〜999）。

POP3 の設定をする

ネットワーク設定ページの［POP3］タブをクリックし、POP3 の設定を行います。

POP3 設定

項目	説明
POP3 サーバー	認証用 POP3 サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。ここで指定した POP3 サーバーは［POP before SMTP］で使用されます。64 文字まで入力できます。
ユーザーアカウント	POP3 サーバーにログインする際のユーザー名を入力します。32 文字まで入力できます。
ユーザーパスワード	POP3 サーバーにログインする際のパスワードを入力します。32 文字まで入力できます。
認証	認証方法を以下から選択します。 ［なし］：パスワードは暗号化されません。 ［APOP 認証］：パスワードは暗号化されます。 ［自動］：POP3 サーバーの設定により、パスワードは暗号化される場合とされない場合があります。

5

IPsec の設定をする

[IPsec 設定] をクリックし、IPsec 設定を行うページを表示します。 本ページには、[IPsec グローバル設定］と［IPsec ポリシーリスト］の 2 つのタブがあります。

重要

- **本機能は管理者のパスワードが指定されたときのみ使用できます。**

IPsec グローバル設定

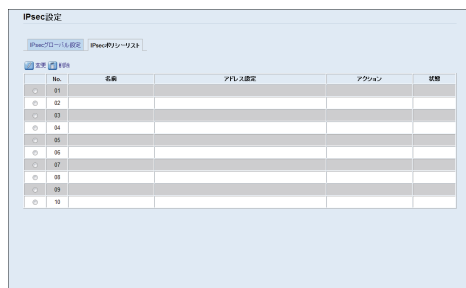
IPsec 設定ページの［IPsec グローバル設定］タブをクリックし、IPsec グローバル設定を行います。

項目	説明
IPsec 機能	IPsec を有効にするか無効にするかを設定します。
IPsec デフォルトポリシー	IPsec デフォルトポリシーを許可するかどうかを設定します。
ブロードキャストとマルチキャストに適用しない	IPsec を適用したくないサービスを以下から選択します：[DHCPv4]、[DHCPv6]、[SNMP]、[mDNS]、[NetBIOS]、[UDP53550 番ポート]
全ての ICMP に適用しない	IPsec を ICMP パケット（IPv4 と IPv6）に適用するかどうかを以下から選択します： • [有効]：すべての ICMP パケットは IPsec で保護されません。 ping コマンド（エコー要求およびエコー応答）は IPsec で保護されません。 • [無効]：一部の ICMP メッセージは IPsec で保護されません。

補足

- ［全ての ICMP に適用しない］が［無効］に設定された場合にどの ICMP メッセージが保護されないかについては、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

IPsec ポリシーを設定する

IPsec 設定ページの［IPsec ポリシーリスト］タブをクリックして、IPsec ポリシーの登録リストを表示させます。

項目	説明
No.	IPsec ポリシー番号
名前	IPsec ポリシー名を表示します。
アドレス設定	IPsec ポリシーの IP アドレスフィルターを表示します： リモートアドレス／プレフィックス長
アクション	IPsec ポリシーのアクションを表示します： ［許可］、［拒否］、［セキュリティー］
状態	IPsec ポリシーの状態を表示します：［有効］、［無効］

IPsec ポリシーを設定する場合、任意の IPsec ポリシーを選択し、［変更］をクリックして［IPsec ポリシー設定］ページを開きます。以下の設定は［IPsec ポリシー設定］ページで行います。

5

IP ポリシー設定

項目	説明
No.	IPsec ポリシー用に 1～10 の番号を指定します。指定した番号で IPsec ポリシーリストのポリシー位置が決定します。リストの順番により、ポリシーが検索されます。指定した番号が他のポリシーにより既に指定されていた場合、現在設定しようとしているポリシーがその番号を取得し、以前その番号を割り当てられていたポリシーおよびその他のポリシーは、それに従い再度採番されます。
適用の状態	ポリシーを有効にするか無効にするかどうかを設定します。
名前	ポリシー名を入力します。16 文字まで入力できます。
アドレスタイプ	IPsec 通信で使用する IP アドレスとして、IPv4 または IPv6 を選択します。
ローカルアドレス	本機の IP アドレスを表示します。
リモートアドレス	通信するデバイスの IPv4 または IPv6 アドレスを入力します。39 文字まで入力できます。
プレフィックス長	リモートアドレスのプレフィックス長を 1～128 の値で入力します。本設定が未入力の場合、32（IPv4）または 128（IPv6）が自動的に選択されます。

項目	説明
アクション	IP パケットの処理方法を以下から指定します。 • [許可]：IP パケットに適用した IPsec なしで IP パケットを送受信します。 • [拒否]：IP パケットを破棄します。 • [セキュリティー]：IPsec は送受信する IP パケットに適用されます。[セキュリティー] を選択した場合、[IPsec 設定] および [IKE 設定] を設定する必要があります。

IPsec 設定

項目	説明
カプセル化タイプ	カプセル化タイプを以下から指定します。 • [トランスポート]：IPsec 対応デバイスと通信する場合、各 IP パケットのペイロードのみを保護します。 • [トンネル]：各 IP パケットのすべてを保護します。本タイプは、VPN デバイスのようなセキュリティーゲートウェイ間での通信の場合に推奨します。
セキュリティープロトコル	セキュリティープロトコルを以下から指定します。 • [AH]：認証のみをサポートする安全な通信を確立します。 • [ESP]：認証およびデータ暗号化をサポートする安全な通信を確立します。 • [ESP&AH]：データ暗号化およびパケットヘッダーを含むパケット認証をサポートする安全な通信を確立します。[カプセル化タイプ] で [トンネル] が選択されている場合、本プロトコルを指定することができません。
AH 認証アルゴリズム	[セキュリティープロトコル] で [AH] または [ESP&AH] が選択された場合に適用される認証アルゴリズムを [MD5]、[SHA1] から指定します。
ESP 暗号化アルゴリズム	[セキュリティープロトコル] で [ESP] または [ESP&AH] が選択された場合に適用される暗号化アルゴリズムを以下から指定します。 [なし]、[DES]、[3DES]、[AES-128]、[AES-192]、[AES-256]
ESP 認証アルゴリズム	[セキュリティープロトコル] で [ESP] が選択された場合に適用される認証アルゴリズムを [MD5]、[SHA1] から指定します。

5

項目	説明
有効期間	IPsec SA の有効期間を時間またはデータ容量として指定します。 指定した時間を過ぎた場合や、指定したデータ容量に到達した場合に、SA は無効となります。 時間とデータ容量を指定する場合、どちらかに到達した時点でSA は無効となります。そして、ネゴシエーションにより、SAが新たに取得されます。 SA の有効期間を時間で指定するには、300〜172800 の間で任意の時間（秒）を入力します。 SA の有効期間をデータ容量で指定するには、20480〜2147483647 の間で任意の容量（キロバイト）を入力します。
PFS	PFS を有効にするか無効にするかどうかを設定します。

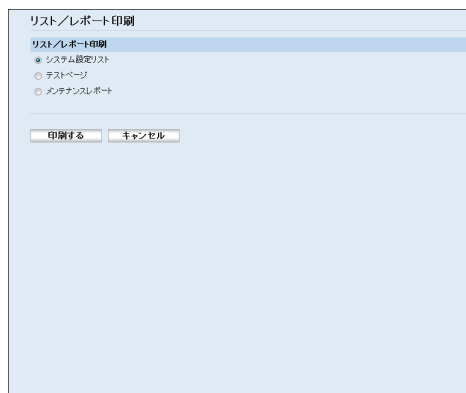
IKE 設定

項目	説明
IKE バージョン	IKE バージョンを表示します。
暗号化アルゴリズム	暗号化アルゴリズムを以下から指定します。 ［DES］、［3DES］、［AES-128］、［AES-192］、［AES-256］
認証アルゴリズム	認証アルゴリズムを［MD5］、［SHA1］から指定します。
IKE 有効期間	ISAKMP SA の有効期間を時間で指定します。300〜172800 の間で任意の時間（秒）を入力します。
IKE Diffie-Hellman グループ	IKE 暗号鍵の生成で使用される IKE Diffie-Hellman グループを［DH1］、［DH2］から指定します。
PSK	通信デバイス認証に使用される PSK を指定します。32 文字まで入力できます。
PFS	PFS を有効にするか無効にするかどうかを設定します。

参照

- IPsec について詳しくは、P.124「IPsec を使って通信する」を参照してください。

レポートを印刷する

［リスト／レポート印刷］をクリックして、レポート印刷ページを表示します。項目を選択し、［印刷する］をクリックしてその項目に関する情報を印刷します。

リスト／レポート印刷

項目	説明
システム設定リスト	本機のシステム構成や設定の内容を印刷します。
テストページ	片面印刷のテストページを印刷します。ネットワーク設定の情報も印字されます。
メンテナンスレポート	メンテナンスページを印刷します。

補足

- 本機が印刷中の場合は、レポート印刷の操作を行ってもレポートは印刷されません。本機の印刷が終わってから、印刷してください。
- リストは、A4 またはレターサイズの用紙に印刷されます。リスト印刷を行う前に、A4 またはレターサイズの用紙を優先トレイにセットしてください。

参照

- 優先トレイ設定について詳しくは、P.85「用紙の設定を変更する」を参照してください。
- 用紙のセットについて詳しくは、『ハードウェアガイド』の「用紙のセット」を参照してください。

5

管理者設定をする

［管理者用設定］をクリックして、管理者設定ページを表示します。

このページには、以下の 5 つのタブがあります：［管理者］、［設定を初期化］、［バックアップ設定］、［リストア設定］、［ヘルプソースファイル設定］。

管理者パスワード設定

管理者設定ページの［管理者］タブをクリックして、パスワード設定をするページを表示します。

管理者設定

項目	説明
新規パスワード	新しい管理者パスワードを入力します。最大 16 文字まで入力できます。
新規パスワード（確認）	確認のため同じパスワードを入力してください。

本機の設定を初期化する

管理者設定ページの［設定を初期化］タブをクリックして、本機の設定を初期化するページを表示します。

設定を初期化

項目	説明
ネットワーク設定を初期化	以下の設定が初期値に戻ります： • ［ネットワーク設定］の設定 • ［管理者用設定］の［管理者］タブの設定
メニュー設定を初期化	以下の設定以外が初期値に戻ります： • ネットワークの設定 • ユーザー制限の設定 • IPsec の設定 • システム設定の［ガゾウノウド］、調整管理の［インサツイチ　チョウセイ］、［テイシツド　モード］（操作部の初期設定）
使用できる機能の設定を初期化	ユーザー制限と、ユーザーごとのカウンター情報を消去します。
IPsec 設定を初期化	IP セキュリティー設定が初期値に戻ります。

補足

- ［IPsec 設定を初期化］は、［管理者］でパスワードが指定されたときのみ表示されます。

本機の設定をバックアップする

管理者設定ページの［バックアップ設定］タブをクリックして、本機の設定のバックアップファイルを作成するページを表示します。必要であれば、このバックアップファイルを使って前回の設定を復元できます。

重要

- **本機を修理に出す場合には、必ず事前にバックアップファイルを作成してください。修理後、本機の設定は初期設定に戻ります。**

バックアップ設定

項目	説明
ネットワーク設定のバックアップをとる	以下の設定のバックアップファイルを作成します： • ［ネットワーク設定］の設定 • ［管理者用設定］の［管理者］タブの設定
メニュー設定のバックアップをとる	以下の設定以外のバックアップファイルを作成します： • ネットワークの設定 • ユーザー制限の設定 • IPsec の設定 • システム設定の［ガゾウノウド］、調整管理の［インサツイチ　チョウセイ］、［テイシツド　モード］（操作部の初期設定）
使用できる機能の設定のバックアップをとる	ユーザー制限設定と、ユーザーごとのカウンター情報のバックアップファイルを作成します。
IPsec 設定のバックアップをとる	IP セキュリティー設定のバックアップファイルを作成します。

以下の手順でバックアップファイルを作成します。

1. バックアップしたい項目を選択します。
2. 必要な場合は、管理者のパスワードを入力してください。
3. ［OK］をクリックします。
4. ウィンドウ下部のドロップダウンリストから、［保存］または［名前を付けて保存］を選択します。

   ［保存］を選択するとバックアップファイルは既定のフォルダーに保存されます。
5. ［名前を付けて保存］を選択した場合、バックアップファイルを保存する場所を指定します。
6. ファイル名を指定して、［保存］をクリックします。

- ［IPsec 設定のバックアップをとる］は、［管理者］でパスワードが指定されたときのみ表示されます。

本機の設定を復元する

管理者設定ページの［リストア設定］タブをクリックして、バックアップファイルから本機の設定を復元するページを表示します。

- **本機が修理から戻ったら、バックアップファイルから設定を復元します。修理後、本機の設定は初期設定に戻ります。**

リストア設定

項目	説明
リストアするファイル	復元するファイル名を入力するか、［参照...］をクリックしてファイルを選択します。

以下の手順でバックアップファイルから設定を復元します。

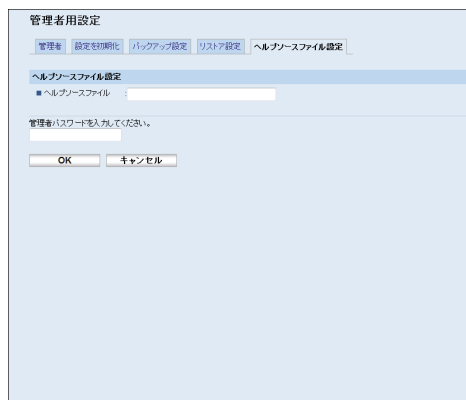
1. ［参照...］をクリックします。
2. 復元するバックアップファイルの格納場所に進みます。
3. バックアップファイルを選び、［開く］をクリックします。
4. 必要な場合は、管理者のパスワードを入力してください。
5. ［OK］をクリックします。
6. プリンターの電源を入れ直します。

5

補足

- 設定が正しく復元されなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。もう一度バックアップファイルから設定を復元してください。

ヘルプファイルをインストールする

以下の手順でヘルプファイルをインストールします。

1. お使いのパソコンのハードディスクドライブに CD-ROM の［WIMHELP］フォルダーをコピーします。

ここでは、"C:¥tmp¥WIMHELP"フォルダーにコピーする例を紹介します。

2. Web Image Monitor にアクセスして、［管理者用設定］ページの［ヘルプソースファイル設定］をクリックします。

3. テキストボックスに"C:¥tmp¥WIMHELP"と入力します。

4. 必要な場合は、管理者のパスワードを入力してください。

5. ［OK］をクリックします。

補足

- ヘルプファイル名は「index.html」です。
- ［ヘルプソースファイル］には言語名フォルダを含まない形式で入力します。たとえばヘルプファイルが Web サーバー上の「http://a.b.c.d/help/ja/index.html」に保存されている場合は「http://a.b.c.d/help/」と入力します。
- ローカルコンピュータまたはローカルネットワークの共有サーバーに保存したヘルプファイルは参照できないことがあります。

Web Image Monitor のヘルプを表示する

画面の上部にある［?］をクリックすると、ヘルプの内容が表示されます。

メインエリアの［?］をクリックすると、メインエリアに表示中の設定項目に対するヘルプの内容が表示されます。

機器の状態をメールで通知する

本機にトナーや用紙切れ、紙詰まりなどのアラートが発生したとき、メール通知機能を使用して機器の状態を通知できます。

重要

- **メール通知機能は、ネットワーク接続時のみ使用できます。**
- **メールソフトによっては、メールを受信したときに、フィッシングの警告が出る可能性があります。回避方法については、メールソフトのヘルプを参照の上、送信者を警告対象外に設定してください。**

機器の状態を通知するメールは、あらかじめ設定した送信先メールアドレスに送信されます。

以下の場合、メール通知できるよう設定できます。

- サービスコールが発生した場合
- トナーがなくなった場合
- トナーの残りがわずかになった場合
- 紙づまりがおきた場合
- カバーオープンが検知された場合
- 紙がなくなった場合

その他、機器名やシリアルナンバーなどのプリンター情報の確認もできます。

1. **Web ブラウザーを起動し、アドレスバーに「http://（本機の IP アドレス）/」と入力し、本機にアクセスします。**

   Web Image Monitor のトップページが表示されます。

2. **左フレーム内のメニューで［ネットワーク設定］をクリックします。**
3. **［自動メール通知］をクリックします。**
4. **［表示名］に送信者名を入力し、［メールアドレス］に受信アドレスを入力します。**

   2 箇所まで自動メール通知を設定できます。

5. **通知したい項目にチェックを入れます。**
6. **必要な場合、管理者パスワードを入力します。**
7. **［OK］をクリックします。**

   参照

   - P.111「メールの認証について」

メールの認証について

メールサーバーの不正利用を防止するために、メールの認証を設定できます。

SMTP サーバーへのメール送信時に、SMTP AUTH プロトコルを使用してユーザー名とパスワードを入力し、認証を行うことで SMTP サーバーの不正利用を防止します。

SMTP 認証の設定方法を説明します。

1. **Web ブラウザーを起動し、アドレスバーに「http://（本機の IP アドレス）/」と入力し、本機にアクセスします。**

   Web Image Monitor のトップページが表示されます。

2. **左フレーム内のメニューで［ネットワーク設定］をクリックします。**
3. **［ネットワーク設定］画面で［SMTP］をクリックします。**
4. **設定画面に示された以下の項目を設定します。**
   - 認証種類：［SMTP］または［POP before SMTP］を選択します。
   - 認証ユーザー名：SMTP 認証のユーザー名を入力します。
   - 認証パスワード：SMTP ユーザー名で設定されたパスワードを入力します。
   - 機器メールアドレス：e メールアドレスを入力します。
5. **必要な場合、管理者パスワードを入力します。**
6. **［OK］をクリックします。**
7. **Web ブラウザーを閉じます。**

SNMP

SNMP を使って本機の情報を取得できます。

本機内蔵のイーサネットインターフェースでは UDP 上で動作する SNMP（Simple Network Management Protocol）エージェントが組み込まれています。

重要

- **本機のコミュニティ名を工場出荷時から変更した場合、Web Image Monitor を使用して接続するパソコンの設定を変更してください。**

工場出荷時のコミュニティ名には「public」が設定されています。このコミュニティ名で MIB 情報を取得できます。

システム設定リストの見かた

システム設定リストには、以下の内容が印刷されます。

1. システムコウセイジョウホウ

- キバン

  製造元で割り当てられたシリアル番号を示します。

- トウサイメモリー

  プリンターの搭載メモリー容量を示します。

- ファームウェアバージョン

  プリンターのファームウェアバージョンを示します。

- セツゾクキキ

  250 枚増設トレイ（トレイ 2）が装着されているときに、「トレイ 2」と表示します。

- カートリッジ

  プリントカートリッジの残量を示します。

- テンシャ ローラー

  転写ローラーの交換時期を示します。

- キュウシ コロ

  給紙コロの交換時期を示します。

- テイチャク ユニット

  定着ユニットの交換時期を示します。

5

2. ヨウシセッテイ

［ヨウシセッテイ］メニューの設定を示します。詳細はP.61「用紙設定メニューの項目」を参照してください。

3. メンテナンス

各トレイの印刷位置についての情報を示します。

4. システムセッテイ

プリンターの設定を示します。

- エラースキップ
- ヨネツモード
- ショウエネモード イコウジカン
- ジドウメールツウチ

5. インターフェース セッテイ

ネットワーク関連設定を示します。

6. インターフェース ジョウホウ

プリンターの物理アドレスを示します。

7. カウンターリスト

カウンターの値を示します。

8. ヨウシヅマリカウンター

プリンターの各部位での紙づまりの回数を示します。

9. エラーログ

エラーログを表示します。

10. IPv6 セッテイ

IPv6 設定を示します。

補足

- システム設定リストは操作部または Web Image Monitor から出力できます。詳しくは、「システム設定リストを印刷する」、「レポートを印刷する」を参照してください。

参照

- P.60「用紙設定メニュー」
- P.66「システム設定メニュー」
- P.71「インターフェース設定メニュー」
- P.64「システム設定リストを印刷する」
- P.103「レポートを印刷する」

6. プリントサーバーを使用する

プリントサーバーを使用するための設定方法について説明します。

プリントサーバーの準備

以下の手順でネットワークプリンターを設定してください。

重要

- プリンターのプロパティの内容を変更するにはプリンターの管理のアクセス権が必要です。内容を変更するときは、Administrators グループのメンバーとして Windows にログオンしてください。

ここでは、Windows 7 を例に説明します。

1. ［スタート］メニューから［デバイスとプリンター］をクリックします。
2. 使用するプリンターアイコンを右クリックし、［プリンターのプロパティ］をクリックします。
3. ［共有］タブの［このプリンタを共有する］をクリックします。

   ほかのバージョンの Windows を実行しているユーザーとプリンターを共有する場合は、手順 4〜7 を行ってください。

   プリンタードライバーのインストール時に、プリンターの共有を選択して代替ドライバーをインストール済みの場合は、手順 8 に進んでください。
4. ［追加ドライバー...］をクリックします。
5. ［追加ドライバー］でプリンターを共有するバージョンの Windows を選択して、［OK］をクリックします。
6. ［参照...］をクリックしてドライバーのファイルを選択し、［開く］をクリックします。
7. ［OK］をクリックします。
8. ［詳細設定］タブの［標準の設定...］をクリックします。
9. プリンターの設定を、ネットワーク上のパソコンが使用する初期設定にして、［OK］をクリックします。
10. ［適用］をクリックします。
11. ［OK］をクリックします。

7. Windows の補足情報

Windows で、コマンドを使ってファイルを開くことなく直接印刷する場合の手順について説明します。

Windows からのファイル直接印刷

lpr コマンドを使って印刷できます。

- **この方法で印刷できるファイルは、プリンタードライバーで作成されたファイルのみです。**

セットアップ

Windows からファイルを直接印刷するための、環境設定の方法について説明します。

以下の手順でセットアップを行ってください。

1. 操作部を使用して TCP/IP プロトコルを有効にし、IP アドレスなど TCP/IP に関するネットワーク環境を設定します。

本機の TCP/IP プロトコルは、工場出荷時は有効に設定されています。

2. Windows に TCP/IP プロトコルを組み込み、ネットワーク環境を設定します。

ネットワークに関する設定内容については、ネットワーク管理者に確認してください。

DHCP を使用して本機の IP アドレスを設定できます。詳しくは「DHCP を使用する」を参照してください。

ホスト名を定義している場合は、IP アドレスの代わりにホスト名も使用できます。詳しくは「IP アドレスの代わりにホスト名を使用する」を参照してください。

3. ネットワークソフトウェアとして「UNIX 用印刷サービス」を組み込みます。

- 「UNIX 用印刷サービス」について詳しくは、Windows ヘルプを参照してください。

参照

- P.131「DHCP を使用する」
- P.118「IPv4 アドレスの代わりにホスト名を使用する」

7

IPv4 アドレスの代わりにホスト名を使用する

ホスト名が定義されていると、IPv4 アドレスの代わりにホスト名を使ってプリンターを指定できます。使用するホスト名はネットワーク環境により異なります。

DNS を使用している場合

DNS サーバー上のデータファイルに設定したホスト名を使用します。

DHCP を使用してプリンターの IPv4 アドレスを設定している場合

システム設定リストの「インターフェース　ジョウホウ」に印刷された「ホストメイ」をホスト名として使用します。システム設定リストの印刷について詳しくは、「システム設定リストを印刷する」を参照してください。

参照

- システム設定リストの印刷について詳しくは、P.64「システム設定リストを印刷する」を参照してください。
- Web Image Monitor を使用したシステム設定リストの印刷について詳しくは、P.103「レポートを印刷する」を参照してください。

その他の場合

印刷を行うコンピュータの hosts ファイルに、ネットワークプリンターの IPv4 アドレスとホスト名を追加します。追加の方法は、使用している OS により異なります。

重要

- **Windows 7 または Windows Server 2008 R2 で hosts ファイルを編集するには管理者権限が必要です。あらかじめ管理者権限を持つアカウントでログオンしてください。詳しくは Windows のヘルプを参照してください。**
- **プリンターの IP アドレスが変更されると、ホスト名ではプリンターに接続できなくなります。この場合、hosts ファイルの IP アドレスを修正してください。**

ここでは、Windows 7（32 ビット版）を例に説明します。

1. メモ帳などで hosts ファイルを開きます。

hosts ファイルは以下の場所にあります。

¥Windows¥System32¥drivers¥etc

2. hosts ファイルに IPv4 のアドレスとホスト名を以下の形式で追加します。

192.168.15.16 ricoh # NP

192.168.15.16 は IPv4 アドレス、ricoh はプリンターのホスト名、# から行末まではコメントです。それぞれの項目をスペースかタブで区切り、1 行で入力します。

3. ファイルを上書き保存します。

- hosts ファイルの設定は DNS サーバーの設定より優先されます。

印刷方法

lpr および ftp コマンドを使った印刷方法の説明です。

コマンドはコマンドプロンプト ウィンドウで入力します。各 Windows でのコマンドプロンプトの場所は次のとおりです。

［スタート］ - ［すべてのプログラム］ - ［アクセサリ］ - ［コマンドプロンプト］

補足

- 「print requests full」のメッセージが表示されたときは、印刷要求が満杯の状態です。印刷要求が少なくなってから印刷し直してください。コマンドを使用したときの最大セッション数は次の通りです。
    - lpr: 10
    - ftp: 3
- ファイル名はコマンドを実行するディレクトリからのパスを含めた形で入力してください。

lpr

IP アドレスを使ってプリンターを指定する場合

c:¥> lpr -S プリンターの IP アドレス -P プリンター名 [-ol] ¥パス名¥ファイル名

IP アドレスの代わりにホスト名を使用する場合

c:¥> lpr -S プリンターのホスト名 -P プリンター名 [-ol] ¥パス名¥ファイル名

バイナリーファイルを印刷する場合は -ol（小文字の O と、小文字の L）オプションを付けてください。

ftp

印刷するファイル数に応じて、put または mput コマンドを使います。

1 ファイルを印刷する場合

ftp> put ¥パス名¥ファイル名 ［オプション］

複数のファイルを印刷する場合

ftp> mput ¥パス名¥ファイル名 ［¥パス名¥ファイル名...］

1. 本機のIPアドレス（またはhostsファイルに設定した本機のホスト名）を引数にしてftpコマンドを起動します。

% ftp 本機のIPアドレス（またはホスト名）

2. ユーザー名とパスワードを入力し、［Enter］キーを押します。

User:sysadm

Password:sysadm

3. バイナリーファイルを印刷するときは、ファイルのモードをバイナリーモードにします。

ftp> bin

バイナリーファイルをアスキーモードで印刷すると、印刷データが変更され正しく 印刷されないことがあります。

4. 印刷するファイルを指定します。

以下はC:¥PRINTディレクトリにある、file1とfile2を印刷する例です。

ftp> mput C:¥PRINT¥file1.prn C:¥PRINT¥file2.prn

5. ftpを終了します。

ftp> bye

補足

- ファイル名に「=」、「,」、「_」および「;」は使用できません。ファイル名をオプション 文字列と判断してしまいます。
- mputコマンドではオプションを指定できません。
- mputコマンドではファイル名に「*」や「?」のワイルドカードを使用できます。
- バイナリーファイルをアスキーモードで印刷すると、印刷データが変更され正しく印刷 されないことがあります。

8. 付録

同梱の CD-ROM や、その他の注意事項等についての説明です。

CD-ROM 収録ソフトウェア

ここでは、本機に同梱されている CD-ROM について説明しています。

ファイル一覧

CD-ROM に入っているファイルの一覧です。

ファイル名	参照
SETUP.EXE	P.13「印刷するための準備」
プリンタードライバー（Windows XP/Vista/7、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 用）	P.121「プリンタードライバー」
各種マニュアル（HTML/PDF ファイル）	P.122「各種マニュアル（HTML/PDF ファイル）」

プリンタードライバー

Windows を使用して印刷するために必要なソフトウェアです。

格納場所と動作環境について

ファイルの格納場所と動作環境について説明します。

ファイル格納場所

同梱の CD-ROM 内の次のフォルダーに格納されています。

- Windows XP/Vista/7、Windows Server 2003/2003 R2/2008 用プリンタードライバー

  DRIVERS¥PRINTER¥XP_VISTA¥DISK1

- Windows XP/Vista/7、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 用 64bit 版プリンタードライバー

  DRIVERS¥PRINTER¥X64¥DISK1

プリンタードライバーの動作環境

- パソコン

  対象 OS が問題なく動作する、PC/AT 互換機

- 対象 OS

  Windows XP/Vista/7、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 日本語版
- ディスプレイ解像度

  1024×768 ドット以上

補足

- 使用方法について詳しくは、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

各種マニュアル（HTML/PDF ファイル）

各種マニュアル（HTML/PDF ファイル）のファイル格納場所についての説明です。

ファイル格納場所

同梱の CD-ROM 内に格納されています。

IPv6 環境で使用できる機能およびネットワーク設定

IPv6 環境で使用できる本機の機能およびネットワーク設定は、IPv4 環境と異なります。お使いの機能が IPv6 環境でサポートされているかどうかご確認の上、必要なネットワーク設定を行ってください。

参照

- IPv6 の設定について詳しくは、P.71「インターフェース設定メニュー」または P.87「インターフェース切り替え時間を設定する」を参照してください。

使用できる機能

FTP を経由した印刷

EPRT および EPSV コマンドを使用し、FTP を経由して印刷します。コマンドを実行するには、Windows Vista/7 および IPv6 をサポートする FTP アプリケーションが必要となります。

プリンター

プリンタードライバーを使用して、印刷します。

Web Image Monitor

プリンターの状態を確認し、Web ブラウザーを使って設定を行うことができます。

設定リスト

プリンターの設定リストを印刷して、IP アドレスなどの設定内容を確認できます。

IPsec を使って通信する

本機には IPsec 機能が搭載されています。IPsec はネットワーク層のレベルで、セキュアなパケット単位の通信を行います。暗号化には送信者、受信者が同じ鍵を保有する共通鍵暗号方式を使用します。鍵設定を使用すると、IPsec の共有鍵を設定した有効期間で更新し、よりセキュリティー強度の高い通信を行うことができます。

重要

- **IPSec 設定の問題により、Web Image Monitor にアクセスできない場合、操作部の［ネットワークセッテイ］で IPSec を無効にしてから Web Image Monitor にアクセスしてください。**
- **DHCP、DNS、WINS で取得する情報、およびパケットについては、IPsec の対象にならないものがあります。**
- **IPsec に対応している OS は Windows XP、Windows Vista/7、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2、RedHat Linux Enterprise WS 4.0、Solaris 10 です。ただし、OS によって対応していない設定項目があります。IPsec の設定を行うときは、必ず OS 側の IPsec 設定内容を確認し、同一の設定を行ってください。**

参照

- Web Image Monitor を使用した IPSec 設定について詳しくは、P.98「IPsec の設定をする」を参照してください。
- 操作部での IPSec 有効／無効の設定について詳しくは、P.129「操作部で IPSec を有効／無効にする」を参照してください。

通信データの暗号化と認証

IPsec には、データの機密性を確保する「暗号化」機能と、データ送信者が正しいこと、またデータが改ざんされていないことを証明する「認証」機能の 2 つの機能が存在します。本機の IPsec 機能は、2 つの機能を同時に有効にする ESP プロトコルと認証のみの機能を有効にする AH プロトコルの 2 つのセキュリティープロトコルに対応しています。

ESP プロトコル

データの暗号化と、ヘッダ以外のパケットの認証の両方に対応したセキュリティー通信を行います。

- 暗号化を行うためには送信側、受信側ともに同一の暗号化アルゴリズムと暗号鍵を設定する必要があります。自動鍵交換設定のとき、暗号化アルゴリズムと暗号鍵は自動的に設定されます。
- 認証を行うためには送信側、受信側ともに同一の認証アルゴリズムと認証鍵を設定する必要があります。自動鍵交換設定のとき、認証アルゴリズムと認証鍵は自動的に設定されます。

AH プロトコル

ヘッダを含むパケットの認証のみに対応したセキュリティー通信を行います。

- 認証を行うためには送信側、受信側ともに同一の認証アルゴリズムと認証鍵を設定する必要があります。自動鍵交換設定のとき、認証アルゴリズムと認証鍵は自動的に設定されます。

AH プロトコル + ESP プロトコル

データの暗号化と、ヘッダを含むパケットの認証の両方に対応したセキュリティー通信を行います。

- 暗号化を行うためには送信側、受信側ともに同一の暗号化アルゴリズムと暗号鍵を設定する必要があります。自動鍵交換設定のとき、暗号化アルゴリズムと暗号鍵は自動的に設定されます。
- 認証を行うためには送信側、受信側ともに同一の認証アルゴリズムと認証鍵を設定する必要があります。自動鍵交換設定のとき、認証アルゴリズムと認証鍵は自動的に設定されます。

- お使いの OS によっては、「認証」は「整合性」という名称を使用していることがあります。

Security Association について

本機は鍵の設定方式として暗号化鍵交換を使用します。鍵設定によって、IPsec 通信に使用するアルゴリズムや鍵などの約束事を送信者、受信者双方に設定します。この約束事を SA（Security Association）と呼びます。送信者、受信者で SA 設定内容が一致していないと IPsec 通信を行うことができません。

SA の設定は自動的に行われます。最初に ISAKMP SA が自動設定（フェーズ 1）され、続いて IPsec 通信のための IPsec SA が自動設定（フェーズ 2）されます。また、より高いセキュリティーを確保した通信を行うために、設定の有効期間を定めることで SA の定期的な自動更新を可能にします。本機の鍵設定方式は IKEv1 のみ対応しています。

SA は複数設定することができます。

No.1～No.10 までの個別設定

IPsec で使用するアルゴリズムや鍵などの SA 設定（IPsec ポリシー）を個別に 10 種類まで設定することができます。

IPsec ポリシーは No.1 から順に検索されます。

自動鍵交換設定のながれ

IPsec の鍵設定は下表の順に実施します。

本機	PC
1. Web Image Monitor で IPsec の詳細を設定	1. 本機の IPsec 設定と同一の条件を設定
2. IPsec を有効化	2. IPsec を有効化
3. IPsec 通信確立の確認	

重要

- 自動鍵交換設定で通信相手の認証方法に証明書を使用する場合は、機器証明書の導入が必要です。
- IPsec 設定後、正しく通信が確立されているかどうかの確認は Ping コマンドを使用して確認することができます。また、鍵交換設定中は応答がないため、通信確立の確認に時間がかかることがあります。

自動鍵交換設定をする

重要

- [IPsec 設定] メニューを表示させるには、管理者パスワードを指定する必要があります。

1. Web ブラウザーを起動します。

2. Web ブラウザーのアドレスバーに「http://（本機の IP アドレス、またはホスト名）/」と入力し、本機にアクセスします。

IPv4 アドレスを入力する場合、各セグメントの先頭につく「0」は入力しないでください。例えば「192.168.001.010」の場合は、「192.168.1.10」と入力します。

「192.168.001.010」と入力すると、本機に接続できません。

3. [管理者用設定] をクリックし、管理者用設定の [新規パスワード] および [新規パスワード（確認）] にパスワードを入力し、[OK] をクリックします。

左メニュー画面に [IPSec 設定] メニューが表示されます。

4. [IPsec 設定] をクリックします。

5. [IPsec ポリシーリスト] をクリックします。

6. リストの中で変更したい設定番号を選択し、[変更] をクリックします。

7. 必要に応じて、IPSec に関連する設定を変更します。

8. 管理者パスワードを入力し、[適用] をクリックします。

9. [IPSec グローバル設定] タブをクリックし、[IPsec 機能] を [有効] にします。

10. 必要に応じて、[IPsec デフォルトポリシー]、[ブロードキャストとマルチキャストに適用しない]、[全ての ICMP に適用しない]も設定します。
11. 管理者パスワードを入力し、[適用]をクリックします。

PC で IPsec の条件を設定する

機器で選択したセキュリティーレベルの IPsec SA 設定と同一の条件を PC 側で設定します。設定方法は OS によって異なります。ここでは IPv4 環境の Windows 7 を例に説明します。

1. [スタート]メニューから[コントロールパネル]－[システムとセキュリティ]－[管理ツール]をクリックします。
2. [ローカルセキュリティポリシー]をダブルクリックし、[IP セキュリティ ポリシー(ローカル コンピューター)]をクリックします。
3. [操作]メニューから[IP セキュリティ ポリシーの作成...]をクリックします。

   [IP セキュリティ ポリシー ウィザード]が表示されます。
4. [次へ>]をクリックします。
5. 任意の IP セキュリティポリシー名を入力し、[次へ>]をクリックします。
6. 「既定の応答規則をアクティブにする(以前のバージョンの Windows のみ)」のチェックを外し、[次へ>]をクリックします。
7. 「プロパティを編集する」にチェックを入れ、[完了]をクリックします。
8. [全般]タブを選択し、[設定...]をクリックします。
9. 「新しいキーを認証して生成する間隔」に本機で設定した IKE 有効期間を分単位で入力し、[メソッド...]をクリックします。
10. 本機の IKE 設定で設定されている「暗号化」(暗号化アルゴリズム)、「整合性」(認証アルゴリズム)、「Diffie-Hellman グループ」(IKE Diffie-Hellman グループ)の組み合わせが、[セキュリティ メソッドの優先順位:]に存在しているか確認します。

    存在しない場合は[追加...]をクリックし作成します。
11. [OK]を 2 回クリックします。
12. [規則]タブを選択し、[追加...]をクリックします。

    [セキュリティの規則ウィザード]が表示されます。
13. [次へ>]をクリックします。
14. 「この規則ではトンネルを指定しない」を選択し、[次へ>]をクリックします。

8

15. IPsecを適用するネットワークの種類を選択し、[次へ>]をクリックします。
16. 「IPフィルター一覧」で［追加...］をクリックします。
17. 「名前」に任意のIPフィルタ名を入力し、[追加...］をクリックします。

    ［IPフィルター ウィザード］が表示されます。

18. [次へ］をクリックします。
19. ［説明:］にIPフィルターの名前や詳しい説明を入力し、[次へ>］をクリックします。

    入力を省略して［次へ>］をクリックしても構いません。

20. 「発信元アドレス:」で「このコンピューターのIPアドレス」を選択し、[次へ>］をクリックします。
21. 「宛先アドレス:」で「特定のIPアドレスまたはサブネット」を選択し、機器のIPアドレスを入力して［次へ>］をクリックします。
22. IPsecの対象とするプロトコルを選択し、[次へ>］をクリックします。
23. ［完了］をクリックし、[OK］をクリックします。
24. 設定したIPフィルタを選択し、[次へ>］をクリックします。
25. [追加...］をクリックします。

    ［フィルター操作ウィザード］が表示されます。

26. [次へ>］をクリックします。
27. [名前:］にフィルター操作名を入力し、[次へ>］をクリックします。
28. [セキュリティのネゴシエート］を選択し、[次へ>］をクリックします。
29. IPsecをサポートしないコンピューターとの通信方法を選択し、[次へ>］をクリックします。
30. 「カスタム」を選択し、[設定...］をクリックします。
31. 本機の［IPsec設定］の［セキュリティープロトコル］で設定した内容に応じた設定を行います。
    - ［ESP］に設定されている場合、[データの整合性と暗号化（ESP）:］をチェックして、次の設定を行います。

      ［整合性アルゴリズム:］に［ESP認証アルゴリズム］で指定した値と同じ値を入力します。

      ［暗号化アルゴリズム:］に［ESP暗号化アルゴリズム］で指定した値と同じ値を入力します。

    - ［AH］が設定されている場合、[暗号化をしないデータとアドレスの整合性（AH）:］をチェックして、次の設定を行います。

8

[整合性アルゴリズム:] に [AH 認証アルゴリズム] で指定した値と同じ値を入力します。

[データの整合性と暗号化（ESP）:] のチェックを外します。

- [ESP&AH] が指定されている場合、[暗号化をしないデータとアドレスの整合性（AH）:] をチェックして、次の設定を行います。

  [暗号化をしないデータとアドレスの整合性（AH）:] 配下の [整合性アルゴリズム:] に [AH 認証アルゴリズム] で指定した値と同じ値を入力します。

  [データの整合性と暗号化（ESP）:] 配下の [暗号化アルゴリズム:] に [ESP 暗号化アルゴリズム] で指定した値と同じ値を入力します。

32. **セッションキーの設定で、「新しいキーの生成間隔:」を選択し、本機に設定した [有効期間] と同じ値（秒またはキロバイト）を入力します。**
33. **[OK] をクリックし、[次へ>] をクリックします。**
34. **[完了] をクリックします。**

    Windows Vista 以降で IPv6 を使用する場合、加えて手順 12 から ICMPv6 の除外設定を行ってください。

    その際、手順 22 では対象とするプロトコルで [その他] のプロトコル番号 [58] を選択し、[セキュリティのネゴシエート] を許可する設定にしてください。

35. **設定したフィルター操作を選択し、[次へ>] をクリックします。**
36. **認証方法を選択し、[次へ>] をクリックします。**
37. **[完了] をクリックし、[OK] を 2 回クリックします。**

    新しい IP セキュリティポリシー（IPsec 設定）が設定されます。

38. **設定したセキュリティポリシーを選択し、右クリックして [割り当て] をクリックします。**

    PC の IPsec 設定が有効になります。

補足

- 設定の途中で Windows の警告メッセージが表示されることがありますが、設定を続行してください。
- PC の IPsec を無効にするときは、設定したセキュリティポリシーを選択し、右クリックして [割り当ての解除] をクリックします。

操作部で IPSec を有効／無効にする

1. **[メニュー] キーを押します。**
2. **[▼] [▲] キーを押して [インターフェースセッテイ] を表示させ、[OK] キーを押します。**

3. [▼][▲]キーを押して[ネットワークセッテイ]を表示させ、[OK]キーを押します。

4. [▼][▲]キーを押して[IPsec]を表示させ、[OK]キーを押します。

5. [▼][▲]キーを押して[スル]または[シナイ]を選択し、[OK]キーを押します。

6. [メニュー]キーを押して、初期画面に戻ります。

補足

- [キャンセル]キーを押すと、前階層のメニューに戻ります。

ネットワークで運用する場合の注意事項

DHCP を使用する

本機は DHCP 環境で使用できます。

- 動作対象の DHCP サーバーは、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 です。
- DHCP リレーエージェントには対応していません。ネットワークに ISDN 回線を接続している環境で DHCP リレーエージェントを使用した場合、本機からパケットが送出されるたびに ISDN 回線に接続され、多大な通信料がかかることがあります。
- 複数の DHCP サーバーが存在する場合は、すべての DHCP サーバーに同じ予約をしてください。本機は最初に応答した DHCP サーバーからの情報で動作します。

AutoNet 機能を使用する

DHCP サーバーから IPv4 アドレスが割り当てられなかった場合、本機は、臨時に 169.254.xxx.xxx で始まるネットワーク上で使用されていない IPv4 アドレスを自動選択して使用できます。

本機の IP アドレスに、AutoNet 機能で自動選択された IP アドレスを設定すると、本機の電源を切るたびに IP アドレスは変更されます。

ご使用のネットワーク環境に適した、IP アドレスを設定することをお勧めします。

- AutoNet 機能で自動選択された IPv4 アドレスは、DHCP サーバーが IP アドレスの割り当てを再開すると、DHCP サーバーから割り当てられた IPv4 アドレスを優先的に使用します。このとき、本機が再起動するため、一時的に印刷できなくなります。
- 本機が使用している IPv4 アドレスはシステム設定リストで確認できます。システム設定リストの印刷方法は、「システム設定リストを印刷する」を参照してください。
- AutoNet 機能で起動している機器以外とは通信できません。

8

Windows ターミナルサービス/Citrix Presentation Server 4.5/XenApp を使用する場合

詳細については、以下のリコーホームページを参照してください。

対応状況について

- Citrix Presentation Server 4.5
  http://www.ricoh.co.jp/IPSiO/os/meta.html
- Citrix XenApp 5.0
  http://www.ricoh.co.jp/IPSiO/os/xa50.html
- Citrix XenApp 6
  http://www.ricoh.co.jp/IPSiO/os/xa60.html

制約事項と補足について

http://www.ricoh.co.jp/IPSiO/os/meta_sub.html

搭載されているソフトウェアの著作権等に関する情報

expat

本製品に搭載しているコントローラなどのソフトウェア（以下、ソフトウェア）には expat を下記の条件のもとで使用しています。

- expat を含むソフトウェアに関するサポートと保証等は株式会社リコーが行うものであり、expat の作者および著作権者には一切の責任および義務はありません。

Copyright © 1998, 1999, 2000 Thai Open Source Software Center Ltd. and Clark Cooper
Copyright © 2001, 2002 Expat maintainers.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files （the “Software”）, to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED “AS IS”, WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

- expat に関する情報は次の URL が示す WWW サイトより入手が可能です。http://expat.sourceforge.net/

JPEG LIBRARY

The software installed on this product is based in part on the work of the Independent JPEG Group.

OpenLDAP 2.1

http://www.openldap.org/software/download

The OpenLDAP Public License

Version 2.8, 17 August 2003

Redistribution and use of this software and associated documentation ("Software"), with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions in source form must retain copyright statements and notices,
2. Redistributions in binary form must reproduce applicable copyright statements and notices, this list of conditions, and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution, and
3. Redistributions must contain a verbatim copy of this document.

The OpenLDAP Foundation may revise this license from time to time.

Each revision is distinguished by a version number. You may use this Software under terms of this license revision or under the terms of any subsequent revision of the license.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OPENLDAP FOUNDATION AND ITS CONTRIBUTORS “AS IS” AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OPENLDAP FOUNDATION, ITS CONTRIBUTORS, OR THE AUTHOR(S) OR OWNER(S) OF THE SOFTWARE BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The names of the authors and copyright holders must not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealing in this Software without specific, written prior permission. Title to copyright in this Software shall at all times remain with copyright holders.

OpenLDAP is a registered trademark of the OpenLDAP Foundation.

Copyright 1999-2003 The OpenLDAP Foundation, Redwood City, California, USA.

All Rights Reserved.

Permission to copy and distribute verbatim copies of this document is granted.

OpenSSL 0.9.8g

http://www.openssl.org/source

LICENSE ISSUES

The OpenSSL toolkit stays under a dual license, i.e. both the conditions of the OpenSSL License and the original SSLeay license apply to the toolkit. See below for the actual license texts. Actually both licenses are BSD-style Open Source licenses. In case of any license issues related to OpenSSL please contact openssl-core@openssl.org.

OpenSSL License

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment:

   "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org/)"
4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.
5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:

   "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT “AS IS” AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Original SSLeay License

This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay@cryptsoft.com).

The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are aheared to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed.

If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used.

This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:

   "This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)" The word 'cryptographic' can be left out if the rouines from the library being used are not cryptographic related :-).
4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement:

   "This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE

LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The licence and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be copied and put under another distribution licence [including the GNU Public Licence.]

お問い合わせ先

消耗品に関するお問い合わせ

弊社製品に関する消耗品は、お買い上げの販売店にご注文ください。

NetRICOH のホームページからもご購入できます。

http://www.netricoh.com/

故障・保守サービスに関するお問い合わせ

故障・保守サービスについては、サービス実施店または販売店にお問い合わせください。

修理範囲（サービスの内容）、修理費用の目安、修理期間、手続きなどをご要望に応じて説明いたします。

転居の際は、サービス実施店または販売店にご連絡ください。転居先の最寄りのサービス実施店、販売店をご紹介いたします。

http://www.ricoh.co.jp/support/repair/index.html

操作方法、製品の仕様に関するお問い合わせ

操作方法や製品の仕様については、「お客様相談センター（ご購入後のお客様専用ダイヤル）」にお問い合わせください。

050-3786-8111

上記番号をご利用いただけない方は、03-4330-0918 をご利用ください。

- 受付時間：平日（月～金）9 時～12 時、13 時～17 時　（土日、祝祭日、弊社休業日を除く）
- 050 ビジネスダイヤルは、一部の IP 電話を除き、通話料はご利用者負担となります。
- お問合せの際に機番を確認させていただく場合があります。

※お問い合わせの内容は対応状況の確認と対応品質の向上のため、通話を録音・記録させていただいております。

※受付時間を含め、記載のサービス内容は予告なく変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

http://www.ricoh.co.jp/SOUDAN/index.html

最新ドライバーおよびユーティリティー情報

最新版のドライバーおよびユーティリティーをインターネットのリコーホームページから入手できます。

http://www.ricoh.co.jp/download/index.html

商標

Microsoft、Windows、Windows Server、Windows Vista、Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Internet Explorer 6 の正式名称は Microsoft® Internet Explorer® 6 です。

Adobe、Acrobat、Acrobat Reader、Adobe Reader は Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびにその他の国における登録商標または商標です。

Apple、Safari は、米国および他の国々で登録された Apple Inc.の商標です。

Firefox は、米国 Mozilla Foundation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Red Hat は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc.の商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国々における商標登録です。

その他の製品名、名称は各社の商標または登録商標です。

Windows オペレーションシステムの正式名称は以下のとおりです。

- Windows XP の製品名は以下のとおりです。

  Microsoft® Windows® XP Professional

  Microsoft® Windows® XP Home Edition

  Microsoft® Windows® XP Professional x64 Edition

- Windows Vista の製品名は以下のとおりです。

  Microsoft® Windows Vista® Ultimate

  Microsoft® Windows Vista® Business

  Microsoft® Windows Vista® Home Premium

  Microsoft® Windows Vista® Home Basic

  Microsoft® Windows Vista® Enterprise

- Windows 7 の製品名は以下のとおりです。

  Microsoft® Windows® 7 Starter

  Microsoft® Windows® 7 Home Premium

  Microsoft® Windows® 7 Professional

  Microsoft® Windows® 7 Ultimate

  Microsoft® Windows® 7 Enterprise

- Windows Server 2003 の製品名は以下のとおりです。

  Microsoft® Windows Server® 2003 Standard Edition

  Microsoft® Windows Server® 2003 Enterprise Edition

Microsoft® Windows Server® 2003 Web Edition

Microsoft® Windows Server® 2003 Datacenter Edition

- Windows Server 2003 R2 の製品名は以下のとおりです。

  Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Standard Edition

  Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Enterprise Edition

  Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Datacenter Edition

- Windows Server 2008 の製品名は以下のとおりです。

  Microsoft® Windows Server® 2008 Foundation

  Microsoft® Windows Server® 2008 Standard

  Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise

  Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter

  Microsoft® Windows Server® 2008 for Itanium-based Systems

  Microsoft® Windows® Web Server 2008

  Microsoft® Windows® HPC Server 2008

- Windows Server 2008 R2 の製品名は以下のとおりです。

  Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Foundation

  Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard

  Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise

  Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Datacenter

  Microsoft® Windows Server® 2008 R2 for Itanium-based Systems

  Microsoft® Windows® Web Server 2008 R2

  Microsoft® Windows® HPC Server 2008 R2

索引

記号・数字

アルファベット

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら